

佐倉連隊の日常生活

昭和九年のある上等兵日記から

一ノ瀬俊也

The Daily Life of the Sakura Regiment : As Described in the 1934 Diary of a Private First Class

はじめに

- ① 日記帳の概要
- ② 千葉での演習・勤務
- ③ 富士山麓での演習
- ④ 対抗競技と連隊への帰属意識
- ⑤ 日常の衣食住
- ⑥ 私的制裁
- ⑦ 連隊と地域社会との関わり
おわりに

【論文要旨】

戦場における佐倉歩兵第五七連隊の行動は、いくつかの連隊史や回想録で比較적으로知られている。しかし、兵士たちの平時の日常生活、意識については不明な点も多いように思われる。本稿は一九三四（昭和九）年に連隊のある上等兵がほぼ毎日書いていた日記帳の内容を分析して、連隊の兵士が毎日どのような訓練・生活を送っていたのかを再構成することを目的とする。日記の筆者は（おそらく）三三年一月現役入営し、翌三四年七月一九日除隊している。日記帳にはこのうち三四年一月一日から除隊後の同年八月一八日までの記述がある。

具体的に千葉での演習・勤務、富士山麓での演習、対抗競技と連隊への帰属意識、日常の衣食住、私的制裁、連隊と地域社会との関わり、といった諸テーマを設定して兵士たちの〈日常〉の再構成に努めるとともに、彼らが自己の所属する軍隊をどう見ていたのか、それは帝国軍隊の支持基盤たりえたのか、といった問題にも展望を示したい。なお、参考資料として、本日記の全文を連隊生活とは直接関係のない除隊後のものを除き、翻刻した。

はじめに

戦場における佐倉連隊の行動は、いくつかの連隊史や回想録で比較的良好に知られている。しかし、兵士たちの平時の日常生活については不明な点も多いように思われる。このたび一九三四（昭和九）年に佐倉連隊のある上等兵が毎日書いていた日記を市場から入手したので、その内容を分析して連隊の兵士が毎日どのような訓練・生活を送っていたのかを再構成し、「佐倉連隊と地域民衆」の実像、ひいては満州事変後における日本軍兵士の意識解明の一助としたい。

日記の筆者は（おそらく）三三年一月現役入営し、翌三四年七月一日除隊している。日記は除隊後もしばらく記され続けたため、日記帳には三四年一月一日から八月六日、一一一八日までの記述がある。七月に除隊したのは、彼が青年訓練所の訓練を修了して現役服役期間が一年半で済んだからにほかならない。なお、参考資料として文末に連隊生活とは直接関係のない退営後のものを除き全文翻刻した。

① 日記帳の概要

この日記の筆者は、巻末の名前欄に「T. Ishikawa」とあり、残念ながら本名や詳しい履歴は現在のところ不明である。歩兵第五七連隊の上等兵、おそらく佐長勤務であることが本文からわかる（三月七日、四月六日）。日記帳は市販の軍隊日記帳（武揚社発行、一九三三年発行、定価五〇銭、図1）で、あるいは初年兵時代教育の一環として強制的に書かされていた日記（拙著『近代日本の徴兵制と社会』吉川弘文館、二〇〇四年、参照）が習慣となつてその後も書き続けたものかとも思われる。ただし上官による点検の跡はいつさいなく、本人も軍隊生活への不満

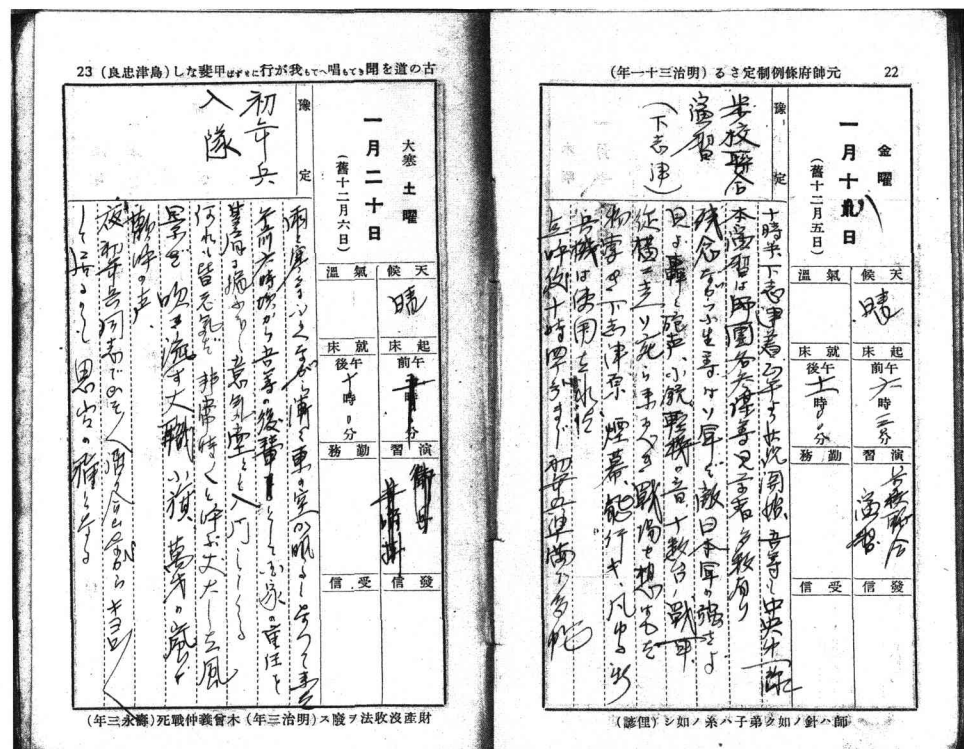


図1

をたびたびもらす（例えば五月一二日には「消灯後モ班内巡視等デ仲々忙しい こんな商売ハもう多サンダ」といった露骨な記述がある）など、もはや上官の眼は気にしていない完全にプライベートルームな日記である。とはいえ、文中に出てくる親しい女性「Y」をイニシャルで記すなど、万の場合への配慮はあったようである。この女性は彼の勤務先である米

屋の主人、または使用人の娘とみられる。

② 千葉での演習・勤務

この時期の佐倉連隊―日本陸軍の仮想敵がソ連軍であったことを示す記述は多い。兵士たちは下志津などの演習場まで行つてはソ連相手の演習を行っている。「十一時ヨリ対赤軍新戦法ノ研究」(一月六日)、「愈々今明日二日間下志津原ニ於テ連合演習タ：状況初めヨリ終了マデ何ント僅カ五分間 余リニモ吾等ハ早く戦死シテシマツタ 尤モ吾等ハ赤軍ダツタ日本軍ガ迎モ強カツタ」(一月十三日)、「十時半下志津着正午ヨリ状況開始 吾等も中央第一線：残念ながら小生等はソ連だ敵日本軍の強さよ見よ轟く砲声小銃軽機の音 十数台の戦車縦横に走り宛ら来るべき戦場を想はれた 物凄き下志津原 煙幕、飛行機、凡ゆる新兵機は使用された」(一月十八日)といったものである。陸軍はソ連軍と機械力で張り合うつもりでいたし、それは兵士たちも同じであった。

夜間演習がひんばんに行われている。例えば五月二十四日から三〇日にかけて下志津で連日のように夜間演習があり、「八時始ル 歩校(「歩兵学校」)近クマデ行キ同ジク大日山付近ニ於テ壕を掘リ待機ス サーチライトノ光リ重キ軽機(「重・軽機関銃」)ノ火花物凄シ 九時半終ル」(四月一九日)、彼らは寝不足となった。「何んと夜間演習の繁盛する事よ」(五月二七日)このあたりは、後年のガダルカナル戦などにみられるような、夜戦に固執した陸軍の体質をうかがわせる。

ガス訓練も数回行われている。「午後は瓦斯消毒班長である防毒衣を着てフー／＼しながら消毒」(五月二二日)、「例に依り消毒班長だ瓦斯地帯の消毒防毒面も覆はず消毒して怒られる」(五月三〇日)と、筆者はガス防御専門の役割をもたされていたのではないかと思わせる記事が多い。後述するように、富士山麓へ行った際もガス演習は行われて

いる。

意外にも、演習をさばった記事が多い。「初メテ近頃演習ニ出タラ教官殿ヨリ今迄無断デ休演シタノヲ叱ラレタ」(三月一日)、「五時より入浴監視終つて帰ると二年兵が夜間演習に整列して居たので密かに舎後より入り食事を致して居た時遂に運なく週番下士に発見さる 止むへず見学す後より出ず」(二月一四日)と、規律正しい軍隊のイメージにやそぐわぬ勤務振りであるが、上等兵ともなればある程度の融通はきいたのであろう。

もちろん、上等兵たる者、選抜されただけあって、目の回るような忙しい日常を送つてもいる。「今日の忙しさ近頃珍しい食料運搬車ノ検査 防火用馬穴ノ返納 梱包材料ノ至急 練習用具の梱包用意明日の材料日夕点呼迄一服の暇なし 商売繁盛 入浴の暇もなく消灯後も幹候の班では準備 明日は終夜演習なので早く休みたいと思ひながら遂に十一時」(五月二三日)。その結果、連隊長の講話があつても「唯員数として行き約一時間半ノ講評中グー／＼寝て許り 何んの話をしたか少しも分らない」(五月二日)ということになってしまった。

③ 富士山麓での演習

千葉県内での演習とは別に、日記の範囲内でも二回、富士山麓(図2)での演習に行っている。まず四月一日、富士行きの噂を聞き、二一日には千葉を出発している。そのさい、「渡瀬ト間違レ苦笑」している。ここでも対毒ガス演習・夜間演習があり、二三日には「隊長ノ伝令トシテ途中一時瓦斯襲来、火を吹く新兵器」(二三日)、「防毒衣ヲ背ノ(囊)ニ付ケ汗ダク／＼デ目的地ニ向フ 一時頃ヨリ横ニナツタ俣、瓦斯兵ニナツタ事ヲ嬉シダ 散兵ハ壕ヲ掘ツタリ前進シタリスル 吾等ハ後方デグー／＼」(二五日)、「払曉戦ダ敵ノ鉄条網ハ幾重ニモ／＼廻ラシテ居

タ友軍ノ戦車ガ物凄ク音ヲ立テナガラ目茶くニシテ歩ク 其ノ跡ヲ
吾々が進ンデ行ク 或者ハ傷キ或者ハ戦死ス 悲惨ナリ」(二六日)。こ



図2 富士裾野瀧河原廠舎(日記の六月二十五日を参照)

こでも機械力に對しある種の畏敬の念が示されており、当時の陸軍が機械力、第一次大戦の戦訓を無視した演習を行っていたわけではないことがわかる。佐倉に帰営したのは二九日であった。

六月一九日から七月五日にも、再び富士へ行っている。この時も「瓦斯兵として何もせず大隊の後尾続行 こんな夜間演習ナラ毎日でも平キ」(六月二四日)、「射チ出ス軽キ 一歩モ寄セマジト光リ射チ続ケル 併シ四時夜襲サレ友軍退却ス」(六月二九日)と、相変わらずのガス・夜間演習で一日一日が終わっていた。

④ 対抗競技と連隊への帰属意識

日記には、中隊・大隊・連隊間で行われた対抗競技が複数出てくる。それは結果的に、自己の属する隊への帰属意識を養うことにもなった。時系列順にこれを示すと、一月七日には「中隊銃剣術競技会」があり、「依然トシテ成績芳シカラズ 勝星ヨリ負星ノ方ガ遙カニ多イ」とある。続く八日には「明日ノ大隊(銃剣術)競技会ニ於テ必勝ヲ期ス為メ麻賀田神社ニ参拜ス 点呼後ハ十分ノ睡眠ヲ取ルベク消灯サル 床の中より秘かに明日の試合の事が思出される 是非とも勝ちたい中隊の名譽の爲にも」とあり、勝つことが中隊の「名譽」との意識がみてとれる。八日当日は「中隊全員必勝ノ意氣物凄ク、試合場ニ望ム 大イニ戦技倆伯中、併シ■(效?) 空シク僅カ三本ノ差デ破ル悲憤残念 尤モ兵ハ六本ノ差デ勝ツ小生依然振ハズ成績良好ナラズ」とある。

一月一五日には師団の剣術競技会があり、「出場者が大勝して帰るので停車場まで出迎へ 万歳の風だ 営庭のアーケ灯の下に於て盛大なる祝杯を挙げる 皆ニコく顔だ 小生も顔は赤くなる程に 吾連隊は師団一だ喜べ」と歓喜の様が描かれている。

一方、五月一日、四日にも大隊の銃剣術競技会があり、「待ちに待つ

たる「大隊」競技会過去一年間鍛へに鍛へた腕を発揮するのは今日だ」との意気込みのもと、「筆者万全ノ力ヲ出したが恨をのんで唯つた一本何の顔あつて幹部に会はれ様か とう／＼僅少の差を以て敗れた」と悔しがつてもいる。

七月九日には大隊特別射撃があり、「交代して射場へ 一本ノ指ノ動キ 其れは射撃章ノ名譽中隊ノ名譽二掛はる事大なり 幸にして高点にて入賞す 併し中隊の成績余り芳しからず 遂に十一中隊へ譲つて了まつた」。彼が引き金にかけた指一本の動きが、中隊の「名譽」に直結しているのである。

⑤ 日常の衣食住

日記からは、日常の生活をかいまみることもできる。「今朝ほど起床の臆苦（億劫）な日はなかつた 今朝からの掃除は水を使用しないで糠袋だ 初年兵も大分助かる様だ」（一月二十九日）、「二時ヨリ鹿嶋川へ洗濯 風ガ若干強ク水殊ノ外冷シ、戦友ノ洗ヒシ襦袢ヲ提ゲテ悠々帰ル 噫勇シキ第二年兵ノ姿ヨ ツクト／＼見ル初年兵ノ忙シサ 蓋シ真面目ナリト云へ」（二月二三日）と冬には水を使わない掃除をしたり、近くの川で洗濯をしている有様が示される。川へ行つて洗濯をしているのは、連隊の水に関する環境があまり良好でなかったかららしい。「入浴ハ一線ダ水不足ノ近頃珍シク入浴アリ」（二月二五日）と、特に雨の降らない？冬季は定期的な入浴が困難なほどの水不足だったようである。

初年兵には厳しい監視が加えられた。日記の筆者は「点呼後手簿及物入整頓等ノ検査」を行い、「発煙筒及クリーム等発見サル 何タル事ダ苟シク（モ） 国家の干城タル軍人ガクリームを持つて居るなんて」（三月三〇日）と、初年兵の墮落ぶりをなげいている。「発煙筒」とは何か不明だが、煙草であろうか。そのため、時に私的制裁を加えている（後

述）。

監視の眼は、上等兵とはいえ同じ〈兵〉の身分である日記の筆者にも加えられた。実家に帰省の時には「町長や分会長の印」を貰う規則だったようである。彼は帰りが「遅くなつてしまったので兄に（受印を）頼んで帰営した為め特務曹長より非常に警られ」（三月二二日）てしまい、後日外出した際には忘れずに印をもらっている。

食べることは兵士の最大の楽しみのひとつであった。「去ル二十四日ヨリ自分ノ過去ニ於ケル雑食ノ費ヒガ余リニモ烈シカッタノデ今後ハ成ルベク酒保ヘ行クノヲ避ケルベク自身デ誓ツタ事ガ徐々ニ実行サレツ、アルノヲ感ジテ心カラ誇ヲ感ジタ」（二月二七日）、「点呼後久し振りに酒保へ行き黄味焼五銭で満足す」（三月二二日）と酒保でたびたび買いものをしている。酒保では、「午後は金十銭を奮発してライスカレーを食いたい」（五月一三日）とカレーも食べられたようである。

営外でもたびたび買い食いをしている。「午後から江原へギ装（＝偽装網？）を作りて初年兵共と行く 帰途葛餅ヲ十銭会ヒデ食ベタ」（四月一日）、「十時半より飯生方面に遊びに行く 行軍を行ひ着いてから見晴しのよい神社境内に於て会食を行い酒等が出る 会費十銭は割安」（四月三日）と、一定の金（「会費」）を出し合つて皆で飲み食いする習慣が兵士たちにはあったらしい。

「娯楽会」的な催しもたまにある。「五時半ヨリ娯楽（娯楽）会ヲ舉行 ス 本年度ノ初年兵ハ仲々ノ腕ダ誰一人トシテ出来ナイ者ハナシ次カラ次ヘト待ツテ居ル 吾々ノ如キ無能者ハ一人モ居ナイ 去年ノ初年兵時代ハ娯楽会ト云フト汗ヲ流シタモノダ」（二月二五日）、「午前中ハ明日ノ軍旗祭分列ノ予行演習ヲ行ひ正午近くまでかゝる 午後は営庭に於て踊りの稽古を行ひ見物に行く 夕食後班内で甲班ノ会食を行ひ各人種々ナ唄を唄ひ合ふ 班長殿がレコードやラヂヲを持って来て聞せて呉れた 仲々面白い」（四月七日）と。また、四月二〇日には「本部前に活動

写真」が上映された。

営外に出てそのまま飲酒することもあった。「十一時より成田山へ明日と四日の試合の武運長久を祈るため全員でお詣りに行く 参詣後例に依り二円三十銭の残金ヲキレイニ彼氏等の許へ 六時半、ユデダコノ如キ格好デヨロ／＼シナガラ帰ル」(四月三〇日)。

⑥ 私的制裁

上等兵は初年兵の監視・指導が職務のひとつであった。「午前は引率外出の予定の所わずか五人丈 初年兵同志で仲々気が合はない 先が思はれる」(二月四日)、「点呼後の巡察中初年兵同志で喧嘩したとの由 早速力まかせに二つ宛 涙流して謝った彼等」(三月八日)と、規律が保てなければ体罰を加えている。

私的制裁はその後も続く。「日夕点呼時班長殿の食器等の検査あり殊の外にきたなく係の吾れも大分叱らる 如何に吾れがズベラであつても去年はこう云ふ事はなかつた 余り初年兵が弛んだ故だ 食器及馬穴を全部投げ出して呆気に取りられて居る初年兵達に学科が 消灯後一時間以上ガタ／＼」(三月一六日)。制裁を「学科」と言い替えているのが興味深い。

とはいえ、いつもなぐっていたわけでもないようで、「襦袢袴下ノ返納で曹長に叱られ初年兵を消灯後並べて学科仕様と考えたが一ツ可哀想なので止めた」(五月二二日)との記述もある。上等兵はあまり体罰を行わないのが普通だったのか、彼の性格によるものだったのかは分からないが、後者であれば「軍隊は軍隊」ということになるのである。

むしろ、上等兵であるにもかかわらず、下士官から体罰を受けているのが目を引く。「夕特務曹長ノ学科アリ其ノ際笑ツタトテ四ツ許リ 今マデ叱ラレタ事ハ有ツテモナグラレタ事ハ無カツタノニ 除隊間際だと

云フノニ無念残念此ノ上モナシ 若シ軍人デナカリセバ彼對手ニ一ツ吾ガ腕ヲ見セテヤルモノヲ 噫ヤルセナキ吾ガ此ノ身ナリ」(六月一四日)、「初年兵ノ動作ガ悪イトテ班長よりサクジヨ〔素枝〕で四つ、近頃ニナクイタカツタ」(六月二〇日)。上等兵とはいえ、やはり軍隊の下層階級であることに違いはなかったのである。

⑦ 連隊と地域社会との関わり

佐倉連隊では、というよりどの連隊でもこの時期には国防思想普及の観点から、周辺地域の青年訓練所生徒に体験宿泊を許していた。日記には「香取郡ノ青訓生、軍隊生活見学ノ為メ来隊一泊ス」(一月九日)との記事が見え、二月二三日にも青訓(所名不明)が一泊している。

入営は地域の一大イベントであった。「午前六時頃から吾等の後輩として国家の重任を其肩に担ふ■意気堂々と入門してくる 何れも皆元氣だ非常時／＼と呼ぶ丈大した風景だ 吹き流す大職(幟)小旗 万歳の嵐だ歓呼の声」(一月二〇日)。「非常時」という意識がより入営風景を盛大なものにしていた。

軍旗祭も同じく地域にとつての大イベントであった。四月三日には「来るべき軍旗祭の予行として娛樂会を挙行踊りや唄で四時間を費した 地方人も多さん見物に來た」、当日の八日には「第二十九回軍旗祭を迎へた此の日天気雲一つなく絶好ノ日和 一週間近くも係って裝飾シタ班内も舍前も宮庭も今日は一般と美を増して居る 十時より分列式を始む 此の日特に第三代連隊長たりし現陸相林閣下及師、旅団長閣下も御出になる 午後は一時より宮庭に於て種々余興あり見物人も大勢、母も孫を伴れてYも思ひがけず遊びに來た 夕食後全員で特に踊りに気合を掛ける 五時近くまで騒だ」と、地域を巻き込んだにぎわいの様が生き生きと描かれている。

面会の際も、連隊を地域の人々が多数訪れた。「今日ハ日曜デアツタ
為面会人ワンサ／＼ト押シヨセタリ 仲デモ近々渡滴スベキ第九中隊ニ
入隊シ居ル可愛イ孫ト或ハ己ガ一人息子ヘト親兄弟揃ツテ来リ面会所ニ
テ涙ヲ流シ又ハ強テ笑テスル者アリ 此レ真ノ骨肉ヲ分ケタ愛情ト云ヘ
様」(六月三日)とあるのは、満州事変後の緊迫した空気をうかがわせ
る。

おわりに

日記の筆者は退営にあたって「重き任務も恙なく果して愈々今日郷里
に錦を飾る事が出来るのだ 思へば懐しき郷里を歓呼の声に送られて入
営してより一年半 或は練兵場で又内務班で鍛へに鍛へた軍人精神とこ
の健全なる肉体とを土産物にして帰郷だ」との感慨をのこしている。日々
の訓練が苛酷であり、ときに体罰を受けて憤怒の情にかられたにもかか
わらず、こうした感情がでてくるのはなぜか。おそらく当時の軍が軍隊
教育の過程でさかんに唱えていた〈軍隊＝人生の修練道場〉という思考
法(詳細は前掲拙著『近代日本の徴兵制と社会』を参照)、自隊への愛
着や娯楽の催し、さらには軍の「物凄い」武力への憧憬といったもろも
ろの要素がそこには介在しているのであろう。だとすれば、この日記も
また、軍隊の存立を支えた民衆意識とでもいふべきものを問ううえで
の一助となつてくれよう。

【参考資料】『昭和九年 軍隊日記』

※略語などにはわかる範囲で脚註を付した。

一月一日(月)

新しき希望の昭和九年を迎へた 例日より早く起床直ちに全員銃剣術を
行ひ終わつて輝かしい初日を拝んだ 今日から年始休暇だ式終了後飛ぶ
ようにして帰宅した 正月だけあつて仲々賑やかだ 皆羽根を着いて居
る 久し振りで暖きフトンの中で夢を結んだ 仲々眠むれない

一月二日(火)

四時の時計と同時に飛び起きた 今日初荷だ久し振りに家業が出来た
仲々軍隊生活と異なる 午後三時半より友人と共に正月気分を発揮した
夜は早速親戚へ遊びに行った 後友人の宴会に行った 楽しい軍隊生活
を語り乍ら時の過ぐるのも忘れた 気が付いたら十一時だ

一月三日(水)

二泊三日の外泊も終り愈々帰営だ 昨夜の宴会の酒の為め遂に起床が遅
れた 午前中は今日が最後と家業に手伝つて正午帰営の途に着いた Y
との別れが何となく? 成田山参詣後四時十分帰営した 帰営後Yに対
する感謝の念で胸一杯でした

一月四日(木)

今日は吾等軍人の精進たる勅諭の下賜された記念の日で八時整列で式を
行ひ直ちに來たるべき歩校連合演習の編正が有つた 午後より日直 外
出も出来ない 昨日の思出にふけりながらなんの事もなく日を送つた

一月五日（金）

今日も休だ午前中は日直（内務） 午後は全員外出班長殿が居ないため俺一人残った 班内はひっそりして居る 一人Yにレターを書いた夕方外出した人々が帰って来たら急に賑やかになって来た 皆機嫌がよい真赤な顔をして居る 今夜は殊の外色々な話で大変だ 俺一人淋しい？

一月六日（土）

八時営庭に集合直下志津二向フ 寒気強ク手が切レソウダツタ 十一時ヨリ対赤軍新戦法ノ研究始ル 四号林ヨリ大日山ニ向フテ攻撃前進再三、五時廿分帰営 被服兵器の手入デ点呼マデ多忙 Yヨリ便り有ル早速返事ヲ書ク 家ノ事ガ思出サレル

一月七日（日）

午前中は中隊銃剣術競技会ヲ行フ 依然トシテ成績芳シカラズ 勝星ヨリ負星ノ方ガ遙カニ多イ 午後は陣営具ノ手入デ終ル 別ニ外出スル気モナシ 酒保ニテ三銭ノコーヒーデ満足ス 夕方より班内デ皆仲よく会食す

一月八日（月）

陸軍始観兵式は都合デ取止ム 午後ハ久し振リデ外出ス 大イニ気合ヲ掛ケテ来タ 六時ヨリ明日ノ大隊競技会ニ於テ必勝ヲ期ス為め麻賀田神社ニ参拝ス 点呼後ハ十分ノ睡眠ヲ取ルベク消灯サル 床の中より秘かに明日の試合の事が思出される 是非とも勝ちたい中隊の名誉の為に

一月九日（火）

午前八時三十分ヨリ大隊銃剣術競技会ヲ行フ 中隊全員必勝ノ意気物凄ク、試合場ニ望ム 大イニ戦技備伯中、併シ■（效？）空シク僅カ三本

ノ差デ破ル悲憤残念 尤モ兵ハ六本ノ差デ勝ソ小生依然振ハズ成績良好ナラズ 中隊長以下幹部ノ辞アル 香取郡ノ青訓生、軍隊生活見学ノ為メ来隊一泊ス

一月十日（水）

八時四十分整列ニテ練兵場ニ於テ分隊教練ヲ行フ出場者僅カ二十四名久シ振リノ練兵場ハ殊ノ外寒ク休日続キノ跡ノ為メカ仲々骨ガ折レタ午後ハ一時ヨリ医務室ニ於テ衛生講話アリ止血法及人工呼吸法ノ学科アリ

一月十一日（木）

八時三十分整列櫛形森ニ於テ歩哨ノ動作 仮接敵トナリ寺崎台上ヨリ斥候ノ動作ヲ行フ 午後は戦斗教練ヲ本丸ニ向つて終了後小隊教練ヲ行フ十時半より不寝番北風寒ク星はきらめき月は兵舎の窓に映りなんとなく故郷の事が思ひ出される Yも今晩は床の中かしら

一月十二日（金）

七時五十分整列す 将校実兵指揮吉野少尉ノ率イル吾ガ戦時編制ノ一個小隊は退却中の敵を習志野に向つて追撃す 初めての軽機^①の分隊長として苦戦す 大和田付近で終る 十一時半、空腹をこらへながら足を引摺り帰営す 午後は明日の歩校連合演習の編成あり 初年兵入隊準備で消灯まで多忙 七時より中隊長の時局に対し学科あり

一月十三日（土）

愈々今明日二日間下志津原ニ於テ連合演習ダ 前七時四十分整列、直チニ萱橋台上ニ向フ寒気強シ十時廿分着直チニ昼食、ソレヨリ後一時半マデ休憩 状況初めヨリ終了マデ何ント僅カ五分間 余リニモ吾等ハ早ク

戦死シテシマツタ 尤モ吾等ハ赤軍タツタ日本軍ガ逆モ強カツタ 一日
掛リデ下志津原マデ来テ僅カ五分間殆ト昼寝ダ 五時連隊ニ着

一月十四日(日)

前日ト同じく歩校連合演習 四号林より大日山に向つて攻撃前進す 午
後二時半終り 亀崎を通つて帰營す 点呼後曹長室(安藤)にて茶菓の
馳走ある 初年兵入隊近々何んとなく多忙

一月十五日(月)

午前中は焚取り本丸西門下等で 後二時頃久し振りでYが面会に来る大
急ぎで面会所に十分位で別れる名残惜しく 七時より師団剣術競技会出
場者が大勝して帰るので停車場まで出迎へ 万歳の嵐だ 営庭のアーチ
灯の下に於て盛大なる祝杯を挙げる 皆ニコ／＼顔だ 小生も顔は赤く
なる程に 吾連隊は師団一だ喜べ

一月十六日(火)

昨夜余り遅くなつたため起床一時間延びる 午前中は被服等で初年兵入
隊準備午後同じ仲々多忙 班内は殆ど外出 一人で準備す 消灯後事
務室で明日の査閲の下調十一時まで 窓より外を見ると雪がちら／＼降
つて来た様だ去年の今夜は丁度 噫寒さも厳しくなった、夜も更けた、
入隊も近づいた

一月十七日(水)

昨夜十一時五十分頃非常呼集 小雪降る中を真暗の中で背囊を付け整列
す 寒気強し 一時状況終る 二時頃兵器の手入終り休む 連隊長より
怒られる(整列が遅いと) 今朝は八時起床 一班内の清潔整頓 中
隊長の内務検査 夕食は二班に於て全員会食 酒も出る 戦友の兵器、

及被服の支給及手入で延灯、多忙

一月十九日(金) ※一八・一九日が入れ替わつて記されている

懐しき故郷と親しき親兄弟とも別れを告げ一泊悲しくYとも別れ歓呼の
声に送られ大なる希望を抱きつ、停車場を離れたのも一ヶ年昔の事だ
今では変わりも変わつてしまつた 午後は面会人で一杯だ 一山くらい
にしては中隊へ案内に行く 色々取り／＼の後輩が戦友の中隊へ希望に
満ちた顔で来る 今日の寒さは格別だとても寒い正午から外套を着す

一月十八日(木)

十時半下志津着正午より状況開始 吾等も中央第一線 本演習は師団各
参謀等見学多数有り 残念ながら小生等はソ軍だ敵日本軍の強さよ見よ
轟く砲声小銃軽機の音 十数台の戦車縦横に走り宛ら来るべき戦場を想
はれた 物凄き下志津原 煙幕、飛行機、凡ゆる新兵機は使用された
点呼後十時四十分まで初年兵準備で多忙

一月二十日(土)

雨と寒さにふるへながら東の空が明るくなつて来た 午前六時頃から吾
等の後輩として国家の重任を其肩に担ふ■意気堂々と入門してくる 何
れも皆元気だ非常時／＼と呼ぶ丈大した風景だ 吹き流す大職(職)小
旗 万歳の嵐だ歓呼の声 夜初年兵同士でひそ／＼語り合いながらキヨ
ロ／＼して居るのも思出の種となる

一月二十一日(日)

入隊第一夜を過ごした朝だ 起床喇叭も何にも分らない 点呼が十五分
もおくれた、前中は入隊式及身体検査で終る 午後も仲々多忙、外出も
出来ぬ 四時から練兵場に於て明日の初年兵の青訓修了者の査閲準備

夜も仲々賑やかになった

一月二十二日(月)

午前中は検定試験の助手 午後と同じく仮設敵として寺崎方面で斥候として青訓受領者の試験用材 練兵場を初めて見た初年兵はキョロ／＼しながら不動の姿勢も思出の一つだ 消灯後班内を見ると仲々寝られない様だ 随分ヒソ／＼話をして居る 中には「母」を呼ぶ寝言が胸を打つ

一月二十三日(火)

午前中は陣営具の⁽²⁾対外修理の準備 午後と同じ 四時より非常呼集に対する伝令としての動作 中隊幹部の家へ通報す 木枯しの風は吹く 大通りも冷くコンクリートの上は宛ら氷上のスケートの如し

一月二十四日(水)

本日より一週間寒稽古だ 楽しい夢路も暖き床も離れて中隊全員舎前に於て銃剣術余程気合を掛けないと寒い、初年兵は五時半起床だ 午前中は初年兵の体力検査に助手として出場 午後は対外修理提出 同六時半より班全員で会食を行ふ 初年兵の感想を聞きながら一ヶ年昔を振り返つて考へて見る

一月二十五日(木)

五時の起床も仲々意苦(億劫か)だ起きるまでが 初年兵も五時半起床、点呼を取つてから早速出場、大いに気合を掛ける 終つて班へ帰つてくると初年兵が暖炉を真赤にして待つて居る 班内掃除も既に終へて居た全く神様の様だ 揃へてくれた食事を前に何んとなく物思ひに迫る様だ 午前も午後も練兵場に於て各個教練

一月二十六日(金)

寒稽古を終へて班内の大掃除を施行 水も冷い襦袢一枚で… 七時頃までは完全に昨日の班内とは少しく異なつた 午前中も午後も練兵場 青訓時代の癖が仲々ぬけないで困る 午後は大隊長殿も見学遊ばされる兄より河内屋の爺の死去の報来る 静かに在りし日の面影を目の前に思ひ浮べる

一月二十七日(土)

初年兵は予防接種の為め入浴は朝、午前中は予防接種で終り午後は何んの事もなし 夕方の寒稽古だけ、明日の日曜は墓参の為他行を許可さる 夕方より二、三人熱の為め浮言を云ふ、初年兵時代が考へられる 今夜は非常呼集が有るとの話に多少神経を尖らして背囊準備して休む

一月二十八日(日)

先日ノ弔報ニヨリ他行外出を許可さる 七時飛ぶ様にして帰宅、河内屋及本家の弔及家の付近の一昨日の火事の話聞き非常に驚く、母が涙を流して迎へる、留守中の難事を聞き自ら感謝の念に燃ゆ 墓参後母に多少の慰みの言を残して帰営す 帰営後ベンを取り礼状に時間を費やす 点呼後加瀬特曹の学科(軽機ノ認識)あり

一月二十九日(月)

今朝ほど起床の臆苦(億劫)な日はなかつた 今朝からの掃除は水を使用しないで糠袋だ 初年兵も大分助かる様だ 来るべき随時⁽³⁾検閲の準備として午前中は管内修理の準備、午後は提出及身体検査、午前中八時より中隊長の勅諭の学科あり 午後六時半より加瀬特曹の軽機の学科あり その前初、二年兵揃つて班内で賑やかに会食を行ふ 消灯後は余り眠いので早く休む

一月三十日（火）

午前中は練習用具及隊外修理提出す午後はは医務室前にて初年兵の照準
監査に出場、三時より夜間剣術用防具支給さる 到る所で皆防具をつけ
る 背の方も仲々嚴重だ 六時半より初年兵に対し兵器の名称の学科
第二線の不寝番を終へて班へ帰つて見ると皆よく休んで居る 窓より映
る月光は冷たく又しても故郷の夜が、仲々寝付けない様々な思出に涙

一月三十一日（水）

寒稽古も愈々本日で終りだ 今まで八日間随分眠むいにも係らず奮勵し
た、特に気合を掛けて試合す 午前中は照準監査 午後は練兵場に於て
各個教練、夕方中隊長殿訓辞あり 来るべき二月三日に閑院宮若殿下が
特に当中隊を名指しで見学に来るから確りやれとの事 夜は七時より軽
機の学科

二月一日（木）

誰かに起こされた様な気がして不図目を醒ました返し火災点呼集の喇叭
が鳴つて居る「それ火災呼集だ」と叫びながら飛び起き早速手拭を腰に
舍前へ整列 状況は三中隊兵舎の火事、駆けるホース班 ガソリンポン
プの響、号令、物凄き有様だ 六時三十分終了 午前中は西門下で各個
教練 午後は来る三日閑院ノ宮若宮殿下に御覧に供する課目の復習点呼
後も学科で多忙

二月二日（金）

二年兵が下志津原へ演習に出張の為間稽古取止む 全員一致大掃除 午
前中は明日見学に供する課目の復習 十一時頃より雨が降り出し駆足を
以て帰営す 十一時半より教官の学科有り 午後は班内に於て同科目を
復習 点呼後は被服号文数及び兵器の駐領番号を調査 多忙

二月三日（土）

朝から雪が降り出した起床直ちに防具検査の準備朝食の時間もなし九時
より検査 雪は愈々盛なり 午後は〇時三十分整列にて閑院宮殿下の
為め初年兵教育実施す 手及足冷く初年兵も可愛想だ早駆三回漸く幾分
暖くなる 殿下には殊の外御機嫌良行の様子 演習一時間半にて帰営
何しろ殿下及連隊幹部多数の将校の前なので堅くなった 節分で大豆を
食べる

二月四日（日）

今日は日曜で家に居たならば昨夜から節分で豆撒きなども行つて居たら
うに、假ならぬ軍隊生活よ 午前中班内で全員一緒となり写真取る 午
前は引率外出の予定の所わずか五人丈 初年兵同志で仲々気が合はない
先が思はれる 寝台の上で半日を送る 五時より軍歌演習で練兵場へ行
く 夕日の満つる様を眺めると何時となる

二月五日（月）

今朝から点呼は又舍前に於て取る 寒風摩擦も身に沁みる、午前と午後
は練兵場にて各個教練 内務班の編制上他班へ廻さる噂に戦友及初年
兵一同の心尽しに感謝す 班全員にて会食を行ひ若干今後の事に付いて

二月六日（火）

午前中は防具の廃品返納午後は陣営具の隊外修理及明日の防具の隊外修
理準備等で仲々の多忙 班の都合上第二班へ廻さる 戦友が涙を流して
別れを惜む 然り尤も初年兵時代の戦友の変るのは嫌だもの

二月七日（水）

二班で第一夜を明かした初年兵は割合に早く起きる 防具の隊外修理準

備の為間稽古を休む十時より練兵場に向ふ 午後は江原台上に於て二年兵の各個教練を見学 今晚非常呼集が有る様なので早速にて点呼後背囊を造へる何時有つても準備完了ス

二月八日(木)

午前中ハ未教育補充兵の為め寝台及机等の準備で終る 午後は旅団長閣下の初巡視及初年兵教育の為め来る 全員営庭に於て閏兵後当中隊は医务室前に於て各個教練霜どろけの為め初年兵の服が泥だらけとなつてしまふ

二月九日(金)

演習は今迄の復習 万機敏なので早駆三回午後は一時より同じく復習 六時より夜間演習 不斉地の行進 招魂社森付近より旧馬場及司令部跡及六百射場付近を通つて御野立所の所に出る 途中凸凹等多多有り初年兵の転ぶ者等続出す 笑い出す者驚いて戦友を呼ぶ呼等で静寂を旨とする行進も目茶苦茶なり

二月十日(土)

朝食も終へ好きな煙草を一服と口に喰へた瞬間何処かで非常呼集と叫んだと思つたらあちこちで非常呼集く／＼と叫び始めた 流石の古兵殿もあわてた小生も其の一人大急ぎで支度して出ると警備出動の状態だ 背囊軍服軍靴大騒ぎ二十分にして漸く整列す入組品違ふ者多数あり午後は四時半より夜間演習山崎方面に斥候に来て悪道路にて苦戦す

二月十一日(日)

昨夜の夜間演習の為め起床一時間延びる 九時より二五九四年の紀元節の佳日を迎ふ 全員営庭に於て遙拝式を行ふ 一時より外出 点呼外出

丈あつて大抵の人は外出す こつそり成田へ出張す 例の通り気合を掛け成田山へ詣でYの安全を祈り 五時帰り佐倉町にて小遊の跡六時帰営提灯行列及娯楽会等で大変賑はふ

二月十二日(月)

今朝も仲々寒い尤も冬だもの無理もない 午前の演習を終へて帰つて来ると孝一郎君が比企君を送つて来て居る 兄に煙草を土産として兄に渡す兄は嬉んで代を渡して呉れる強売の様だ 折角入営した比企君も酒保の案内も多忙の為め出来ない 比企君等より家族の話を聞き又思ひ出の昔をいし

二月十三日(火)

午前中は血液検査で終る 午後は夜間演習の予定であつたが食事が遅れたので取止む 点呼後久し振りにて早く床に着く 仲々寝むれない 家に残せしYの身の上が思い出される 近頃音信もなし 何時か行つた時話した体の異状が気に掛かつてく暇さへ有れば

二月十四日(水)

午前中も午後も練兵場に於て戦斗各個教練殊更に身に覚ゆ 五時より入浴監視終つて帰ると二年兵が夜間演習に整列して居たので密かに舍後より入り食事を致して居た時遂に運なく週番下士に発見さる 止むへず見学す後より出ず 八時半終る 三時より不寝番の由に喰つて掛かりたくなつた

二月十五日(木)

中隊内務検査は都合上取止め 午後一時半より初年兵の月例身体検査あり 五時半より夜間演習前哨の動作 真暗な闇に乗じて初年兵に近づき

頭を二、三つ、驚く兵を尻目に又次の歩哨へ、八時終る 帰営後Yに発信す

二月十六日(金)

今日の各個(戦斗)教練も仲々億苦だ 二年兵は夜間演習に五時整列 明日の内務検査の準備で、命令録及種々の仕事多あり消灯後まで多忙 比企君より故郷の話を伺いまして廣雄君が近々嫁を貰ふ由何んとなく自分の現在の身を振り返り

二月十七日(土)

本日の中隊内務検査午前中は準備午後一時半より実施す、各班被服の検査あり当二班は軍衣袴、成績稍良好 夕方、外務週番の命に接す 噫天命なりや 明日の外出に比企君を送りながらと思つていたのは如何せん哉 被服手入の為め一時間の延灯

二月十八日(日)

日曜も何んのその、洗面所の残飯及舎前後の清潔、比企君が本日除隊なので午前中は酒保で最後の別れか、午前十一時より補充兵の陣営具引上げや借用品返納、午後一時より泥掃除酒保などへ行つて居る暇なぞ更になし全く初年兵時代の如くなり 況んや洗濯など夕食後酒保の橋本君の所へ初めて遊びに行く

二月十九日(月)

起床ラッパで起きた、風の大きいのに驚いた迎もく空は真赤に色取られて居た Yより殊の外(意外にも)皮肉の書信来る 余りと言へばくの便りに心無くも最も皮肉の便りする 後で可愛想だと悔後の念に燃ユル 消灯後ハ特ニ火災予防ニ注意シツ、巡察ス

二月二十日(火)

初年兵ハ行軍、今日も陣営具の員数検査等デ休み 実ニ班長ニ対シテ気ノ毒ト思フ去リトテ外ニ思案ナシ 二線ノ入浴中火事トノ報ニ大急ギデ中隊へ 途中弾薬庫ノ警報板ノ音がガ非常ニ早ク鳴リツ、アルヲ聞キ胸ヲ打タル 夕方ヨリ初、二年兵共夜間演習 夕食ノ食器洗丈内務ヲ交代服務、出場シナイ者ハ唯三人班内ヒツソリ

二月二十一日(水)

又休み、明後日⁽⁴⁾ノR内務検査ノ準備トシテ倉庫ノ員数下調及片付け、練習用具ノ品名不明ノ為メ非常ニ困ル 日夕点呼後延灯二時間 被服整理 仲々多忙、昼間の多忙、夜間の多忙、巡察ヲ終ヘテ下番十二時 今日位体の疲れた日は近頃初めてだ 消灯後ノ巡察ニ特ニ気合ヲ掛け弛ミ勝ちナラントスル軍紀ヲ敢然トシテ引締メタ

二月二十二日(木)

昨夜余リ遅ク迄起キテ居タ故、今日ハ何ントナク眠ムイ 明日ノ内務検査準備起床同時寢台ヲ出シ溝渌、倉庫デ一日ヲ終ル 二時ヨリ鹿嶋川ヘ洗濯 風ガ若干強ク水殊ノ外冷シ、戦友ノ洗ヒシ襦袢ヲ提ゲテ悠々帰ル 噫勇シキ第二年兵ノ姿ヨ ツクく見ル初年兵ノ忙シサ 蓋シ真面目ナリト云ヘ 今日モ延灯 二時間 近頃ノ延灯デ少々床ガ悪シクナル

二月二十三日(金)

内務検査モ遂ニ来タ十時迄ニ準備完了ス其の間多忙R⁽⁵⁾長初めRの幹部多ク来る川勝少佐ニシボラル不幸外務徽章付ケテ居ル故哉 一時間半にて終る来るく皆に種々なる事項を問はれる 廊下際の悲哀を感じ 午後は青訓生 営内一泊を以て来る 準備の為例の通り休演殆どベンチャラにて終る 風強く夜間演習あり寒気強く家ノ炬燵が思はれる 入浴なし

一時間又延灯最後の週番巡察終 十一時

二月二十四日(土)

午前中ハ又休ム今週ハ殆ド休ンデシマツタ 体ガ迎モダルイ 午後ハ久シ振リデ出演ス当分見ナカタラ初年兵達随分上手ニナツテ居タ 点呼ノ際元氣ガナイトテ班長殿に恐ラレルオ陰デ軍装ニテ整列ノ非常召集第二班支行ハレル 上等兵ハ監視ト来ル満点ダ Yヨリノ返事来ル渡シテ呉レルノモ待遠シク封ヲ切ル 依然トシテ便リハ嬉シク況ヤYヨリノ便リニ於テオヤ 来ル土日ガ待遠シイ 何ントカ軍略ヲ以テ

二月二十五日(日)

入浴ハ一線ダ水不足ノ近頃珍シク入浴アリ午前中ハ例ノ通り使役ヲ取ツテ青訓生ノ跡片付ケ午後ハ寝台ノ上デ日曜気分デグーグー 五時半ヨリ誤業(娛樂)会ヲ挙行ス 本年度ノ初年兵ハ仲々ノ腕ダ誰一人トシテ出来ナイ者ハナシ次カラ次ヘト待ツテ居ル 吾々ノ如キ無能者ハ一人モ居ナイ 去年ノ初年兵時代ハ誤業会ト云フト汗ヲ流シタモノダ 久シ振リデ消灯ト同時ニ床ノ中ヘ

二月二十六日(月)

起床後間もなく大隊の火災呼集ある 左ノ足裏が非常にいたい 漸くの事で演習は出る 帰營後火災呼集有るとの話早速用意 北風風速五米との通報か 五時頃とう／＼らつばが鳴つた 状況第五中隊兵舎より発火足が悪いので班内で巡視窓より眺めると仲々大々的だ 今日ハ入浴は九時より 点呼後衛生法急球(救急)法ノ学科アル

二月二十七日(火)

足ガ痛ムノデ休ム班内ノ一日ハ殊ノ外長シ久シ振リニ斥候ノ動作ヲ勉強

ス 自分ナガラ感心スル午後モ同ジ夜ハ来ルベキ随時検閲ノ為メ器具及ビ被服ノ支給アリ十一時マデ延灯 去ル二十四日ヨリ自分ノ過去ニ於ケル雑食ノ費ヒガ余リニモ烈シカタツタノデ今後ハ成ルベク酒保ヘ行クノヲ避ケルベク自身デ誓ツタ事ガ徐々ニ実行サレツ、アルノヲ感ジテ心カラ誇ヲ感ジタ

二月二十八日(水)

又休ム午前中ハ診断ヲ受ク、午後ハ中隊内務検査 五時ヨリ会食 歩の中隊全員の会食を行レ 幹部肉弾三勇士の講話アリ 七時半終ル 本日モ延灯二時間検閲準備トシテ今日ノ中隊軍装検査ニ於テ注意サレタ点ヲ補修 二時間位ノ延灯デハ仲々ヤリキレナイト言ツテ二時間多ク起キテ居ルト眠ムイ 今夜ハ特別月ガ窓ヲ通シテ吾等ノ床マデ輝ラシテ居ル

三月一日(木)

唄ニモ有ル通り花咲キ鳥鳴ク春ヲ迎ヘタ 今日ヨリ本当ノ小春日和ダ初メテ近頃演習ニ出タラ教官殿ヨリ今迄無断デ休演シタノヲ叱ラレタ午前中ハ射撃 日本晴ノ本丸デ予行演習モ仲々味ナモノダ 午後ハ戦斗各個 夜間演習ハ都合上取止メ班内ノ大掃除 今夜モ十一時迄延灯 検閲準備(デ段々目ガ紅クナル許リ) モウ検閲ハコリ／＼ダ 況シテ一時ヨリ本部不寝番ト来テハ尚更ダ

三月二日(金)

起床ラツバデ漸ク名残惜シク延灯二次グ毎日デハ床離レモ甚ダ悪シ 検閲準備トシテノ軍装検査 午前中ハ準備 馬生準備完了シテ時ノ立ツノヲ待ツ 十一時特曹ヨリ来週ノ内務ヲ命ゼラル何タル幸運児ナリヤオ陰デ軍装検査ガ何ソノソノ 青クナツテ汗ヲ流シツ、準備シツ、アル戦友ノ阿呆ラシサ 正午ヨリ交代折角作り上ゲタ(心血ヲ以テ) 背囊ヲ涙デ

コワス 久シ振りノ飯上ゲデ今夜カラ少シヅ、気合ヲ掛ケヨウ

三月三日（土）

朝起キテ見ルト雪ガチラ／＼降ツテ居ル雀ノミ嬉シソウニ飛ビ廻ッテ居ル 雪ハダン／＼強ク降り随時検閲ノ予行演習ハ台無ダ 折角ノ二装ノ被服モ一装ノ装具モ目茶苦茶ダ 横ナグリニ吹ク風雪 検閲ノ予行ニ出ル者モ今日ハ大変ダ 幸ニ内務カ 午後ハ全員大々の二舎前舎後ノ溝漑

三月四日（日）

今朝ハ随分モヤガ大キイ 第三中隊兵舎ガ漸ク淡ク見ヘル位ダ 検閲前ナノデ日曜ハ廃休 午前モ午後モ班内ノ大掃除 曹達ヲ使用シテ断然凄ク 週番上等兵モ炊事ノ掃除 全員デマルデ使役ノ様ダ 正午ハ石鹼ヲ使ツテ食器ヲ 今夜モ二時間延灯

三月五日（月）

午前中ハ例ニ依リ使役同様ノ仕事 炊事場ノ掃除 専務兵ノ手伝デナツバヤ切ル姿にてほう丁持つ母の姿が思ひ出される 午後は倉庫片付ケ三時より中隊長ノ内務巡視があるので炊事へ退却 消灯後日記を書きつゝ、来る十一日の事が思はれ若し外出でも出来なかつたら如何仕様と思ひつゝ、とう／＼十一時近くだ 休むと仕様 床へ入つても仲々ねむれない

三月六日（火）

今日行ハル筈ノ検閲ガ一日延ビテ明日ト明後日ニナツタ諸般ノ準備完了 班内モ見違ヘル様ニキレイニナツタ 天上裏カラ整頓迄総テガ趣ヲ異ニシテ居タ ダガ中隊ガ巡視中隊トノミ思ツテ居タノ二十一中隊トノ事ヲ聞イテ若干落胆シタ 唯初年兵ノ衛生教育文 午前中ハ内務週番トシテ炊事ノ掃除及運搬車等ノ溝漑十時半ヨリ中隊長ノ学科アリ 午後ハ倉庫

ノ掃除 明日ノ起床ハ全員五時

三月七日（水）

軍装検査ノ整列ガ早イ為め全員五時起床 お陰で飯上げは四時 況して昨夜は寒氣烈しく仲々眠むれなかつた うと／＼しながら炊事場へ全員整列した後上等兵殿御自ら食器洗ひか どうかと思ひますがね 十時より班内にも軍靴巻脚絆 班内も目茶苦茶 今まで掃除したのに 五時頃火災呼集あり 班内居残り

三月八日（木）

今日も一日班内で暮らす 併しながら腕の章はだてにはやらぬ 検閲も一段落し 点呼後の巡察中初年兵同志で喧嘩したとの由 早速力まかせに二つ宛 涙流して謝つた彼等を眺めた時Yよりの便りを思い出しなんとなく哀さを ■じかつた

三月九日（金）

昨夜突然明日の陸軍記念日に勝浦へ出張の命令が出たのでどうにかして行きたいと思つて心を焦らせて居た 十時頃分配現品も同時こんな忙しい内務は初めてだ とう／＼週番の為め行けない 外泊を楽しみに班内で初年兵相手 夕食と小玉を多さん食べて口から出そうだ 二年兵等が居ないと初年兵もずつと楽らしい

三月十日（土）

うつら／＼夢路を辿つて居た時非常呼集の叫びに驚いて飛び起きた 時計を見ると十五分前だ「防具を着けて整列」知つちやあいないよ内務だ ゆつくり巻脚絆を付けて煙草一服して分配に行く 皆勝浦へ出張した跡なので静かだ 内務なので外出も出来ない ゆつくり寝台上で休む タ

方元気で勝浦より帰営す 明日外泊を楽しみに胸がわく／＼

三月十一日(日)

一途に外泊／＼と許り信じて居たのに豈はからんや外泊など何所かへ吹飛んでしまった面白くない 勤務が何だ演習が何だ 午前中は予行演習用の芝切り午後は外出と思つたが送る寝台の上で Yとも約束の日だが返事が来ない 何から何まで癪だ 今に見ろ もうきつと／＼ 夜はゆつくり

三月十二日(月)

随時検閲ノ慰勞休暇 午前中ハ射撃予行演習台ヲ修正 午後ハ外出デコツソリ帰宅す 途中雨降り出し困る 家よりYと会う余裕なく早速帰宅の準備 遠慮しつつ小使を貰ふのも仲々むづかしい 四時三十分帰営 明日の衛兵はおそれ居たら案の定衛舎係さうんざりした 大急ぎで支度する 週番下士官の訓へも有り 準備す多忙 非常呼集有るらしい

三月十三日(火)

朝からしと／＼小雨が降つて居た 春雨の如く霧を薄くまいた様だ 雨の為めか割合に暖かい、だが手だけ濡れて冷い 面会人は少いが唯一人 凄く奴が来た 妹だなんてあやしい物だが兎角衛兵もたまにはあんなのが来なくては淋しい 一陽来福だ 巡察は余り来ないが十二時頃までに四回 其の都度見事な応答振りを發揮す

三月十四日(水)

昨日来の雨も夜中頃から止む 温度は七度平均くらい 色話やおのろけに花を咲かす 四時頃司令暇眠中突然將校集会所が大事だと週番司令が云つて来た 早速日頃手練を表はすは此の時許りと臨機の所置を取る

服務終り帰隊したら特曹⁽⁶⁾より表彰の知らせあり 若干満足す 午後より来る十六日行はれる大隊長の査閲準備で各個教練

三月十五日(木)

一昨日衛兵勤務のお陰で仲々床離れが悪し 午前中は分隊教練 Yより返信来ると思つて居たより余りにも冷淡だあつさりして居る 落胆せざるを得なかつた 返事を書く元氣もなし 五時より夜間演習 暇〔仮?〕標を持つて練兵場へ 奥地の前身で仲々落ち込む者あり とう／＼小生迄其の一人となる この寒いのに汗を流す

三月十六日(金)

初年兵教育視察の為大隊長殿の査閲あり 二年兵も共に 大体に於て良好なるも未だ眼光る力なしとの講評あり 日夕点呼時班長殿の食器等の検査あり殊の外にきたなく係の吾れも大分叱らる 如何に吾れがズベラであつても去年はこう云ふ事はなかつた 余り初年兵が弛んだ故だ 食器及馬穴を全部投げ出して呆氣に取られて居る初年兵達に学科が 消灯後一時間以上ガタ／＼

三月十七日(土)

午前七時整列す成田方面へ行軍 途中連絡及伝令の動作往路は住野及七栄を通過 六軒行軍あり久し振りにアゴを出し／＼しながら行進す 近頃余り歩かなくなつた為殊の外に疲れた 併し二年兵と云ふ肩書がある 初年兵に負けられない唯意地で行つた 成田で唯か一時間の休憩では何所へも行かれない 帰路は軍歌を唄いながら疲れを忘れて声張り上げて

三月十八日(日)

昨夜の不寝番も行軍で疲れた精か仲々眠むい今朝は午前中第三、四習会
丁度一時頃まで掛つた 小春日和の下で予行演習の名で煙草を喰むのも
悪くない 午後は洗濯で一杯 酒保へ行く気もないと云つて近頃外出な
ぞする気は更にならない 家が残つて居る人を考へれば尚更だ 汗をかいて
留守中を守つて居る母を惜つて 六時から娯楽会を挙行 近頃の唄は随
分余りにも下品な唄ばかりだ

三月十九日(月)

午前中は天幕露営午後は明日の査閲準備で各個戦闘 教官殿の言葉は全
く活動写真の様だ 映り変りが非常に早い、午前中でもブリキ鉄(鉢?)
を使用するからと直ぐ持つて来いと云つた駆足で運んで行くと不用だと
云ひ午後手榴弾を使用すると云ひ一時間も掛つて準備すると止めたと
云ひ何を行ふか自分でも分らないらしい、七時より初年兵は学科試験あ
り 不寝番でもないが眠むいから早く休むう

三月二十日(火)

各個戦闘査閲の為に起床三〇分線上で最後の不寝番で巡察すると初年兵
が未だ一時間も前から起きて背囊を作つて居る 初年兵時代は仲々忙し
い物だ 午後は飯盒炊きだ 五時半整列をし夜行軍 入浴が終てからは
体がだるくてくでも明日は休みだ確り行かう 夕方夜間演習の準備を
して居ると班長殿が外泊をもらつてくれたので大急ぎで帰営す

三月二十一日(水)

昨夜友人が遊びに来たので十二時過ぎまで話し込んでしまつた 今朝は
久し振りのやはらかい布団の上でゆつくり一時近くまで休んでしまつた
午前中は父等の墓参りやMの見舞の為に和田と病院へ 帰宅の頃大風の
為め電灯等も消へ真暗だ 九時頃中隊へ達す 家へ返事を書いて居る時

でも三回許り停電す

三月二十二日(木)

外泊の際町長や分会長の印は遅くなつてしまつたので兄に頼んで帰営し
た為め特務曹長より非常に警られた 午後四時より明日の払曉攻撃等の
準備の為に練兵場へ 今夜の点呼は七時 二年兵は点呼後直ちに休めと
週番下士の命令だ 班長殿も頭がいたいと早くから休む 点呼後久し振
りに酒保へ行き黄味焼五銭で満足す

三月二十三日(金)

未だくと思つて夢路を辿つて居ると起床くの声に起された 三時だ
同四十分整列終り昨日の指示に従つて防御陣地を構築す 寒さは割合に
烈しく大霜だ 吾等は逆襲部隊となつて横合より突込む 起床頃状況終
る 午前中は江原付近に於て陣中勤務、仮設敵となりて各歩哨線を警
「驚?」かす 午後は二時より来るべき査閲の軍装検査を行ふ種々注意
あり

三月二十四日(土)

昨夜は二年兵が十二時半頃演習から帰つて来て兵器の手入等をして居た
ので仲々眠れなかつた今朝は初年兵は五時半起床で七時から練兵場で午
後は一時半より三時から入浴 五時半整列にて初、二年兵共陣中勤務の
夜間演習 査閲間際なので各中隊共入乱れて行ふ 今日特別風が大き
い 九時半終る 明日は起床一時間延びる 兵器の手入れして雑食を喰
いてそれからゆつくり休む

三月二十五日(日)

昨夜ノ演習デ今朝ハ起床ガ一時間延ビタ赤イ太陽ノ出タ明イ朝タ四方ノ

明ルクナルマデ床ノ中ニ居ルノモ悪クナイ 日曜ダト云フノニ午前中ハ
黒須少尉殿ノ上等兵ニ対シ要図ノ書キ方ノ学科アリ オ陰デ午前中ニ陣
営具ノ片付ケ 午後外出ト思フテ居タ予定ハ外レ外出出来ズ 午後倉庫
ノ片付ケ戦友等ト共ニ写真ヲ取ル 夕食後ハ皆デ大騒ギヲシタ 皆愉快
ダ 点呼時襦袢、物入等ノ検査アリビク／＼シタ

三月二十六日(月)

午前中ハ軍装検査ノ準備午後ハ一時ヨリ検査 暖炉部分品返納ノ為メ遂
ニ出場出来ズ Yより美津子の入学出来ずとの報来る一番楽しみにして
居る美津子が落ちたと聞き自分の事の様に落胆す Yのレターは総てが
近頃は昔と違ふ 外に？出来た 点呼後初年兵の据銃演習を行ふ 四十
分間皆汗を流ス況ンヤ俺の戦友ハ一汐可愛想だつた

三月二十七日(火)

愈々本日から第一期検閲だ午前中は準備の為め多忙、午後三時整列して
首切坂に向ふ 北風強く衣の三月と思へない程寒気割合に寒し 歩哨掛
を命ぜられウンザリするオ陰で大福の包を一つ余計に失札する 状況を
与えられ大隊長に注意が 十一時終る 帰営して兵器の手入を終ると既
に一時半、戦友の買った黄味焼を食べつゝ、床へ

三月二十八日(水)

昨夜の夜間演習の為め起床二時間延びた 八時起床々と呼ばれたが余り
眠むいので遂々三十分余計に 二年兵ならでは出来ない事だ 十二時、
整列して練兵場へ軍装検査に 折から特に旅団「長」閣下が御出になる
各個教練等で約一時間今日も曇りにて寒し 概して良行の公評に帰営

三月二十九日(木)

花の三月と云ふに朝が冷たく雪が降り出した 十時頃には相当な降りだ
一面白く銀世界と変つて了まつた 今日には衛兵は中隊上番だ 可愛想だ
が夫れも勤務だ仕方がない 正午から殆ど全員仮設敵で練兵場へ 小生
一人初年兵対手に班内で遊ぶ試験等をした 四時頃ふるへながら仮設敵
が帰つて来た 風も交り相当の雪だ 夜も仮設敵が出た 何んと幸運よ、
吾一人は、九中隊の兵士が裸で練兵場へ驚いたね

三月三十日(金)

昨夜ハ点呼後中隊長殿ノ所へ公用ニ寒さは強し帰途ワイン二三ツ吞て紅
顔ス 今日ハ午前中二年兵ハ銃剣術吾々初年兵係は班内教練、午後ハ上
ト兵ハ加瀬特務曹長ノ図上戦術有り 第〇分隊前へと号令を掛けながら
小さい兵隊を動しながら戦闘ス 台上ノ重、軽キ猛威ヲ振う 友軍ノ兵
バタ／＼倒レル 味方不利 点呼後手簿及物入整頓等ノ検査アリ 発煙
筒及クリーム等発見サル 何タル事ダ苟シク「モ」国家の干城タル軍人
ガクリームを持つて居るなんて

三月三十一日(土)

起床同時、軍装ニシテ分隊教練を練兵場にて行ふ所々雪残り霜柱二寸余
に及ビ手が切レサウデアル 初年兵が手を真赤ニシナガラ早駆前ヘデ泥
ダラケニナル 七時半終ル 午前中ハ勅諭ノ勉強午後ハ受検中隊ヲ見学
ス 二時半ヨリ銃剣術 二週間以上やらなかつた故か息切れがする 夜
間九時整列をし東射場に於て夜間の火点奪の行フ 八時終わり点呼の際
四十分初年兵据銃演習を行ふ 六百五十回汗ダラ／＼ダ 明日カラ五時
半起床カ

四月一日(日)

今朝カラ五時半起床ダ三十分丈日が延びた其の分休む時間が少くなつた

午前中は班内教練雨はしとくと降つて居る 明日の検閲が思はれる
午後から江原へギ装を作り初年兵共と行く 帰途葛餅ヲ十銭会ヒデ食
ベタ 入営以来四百五十日目初めて五時半より七時半まで二時間掘銃
演習を行ふ 初年兵対二年兵で行つたが遂に二年兵の負け

四月二日(月)

愈々最後ノ検閲日ダ 午前中ハ軍装ヲ作り十時ヨリ軍装検査十一時四十
分整列にて分隊教練にて筆者も敵兵の一人として出場防毒面ヲ付テ早駆
前へでへこたれて 夜は夜間演習も先へ帰り班内で一人さくら音頭を習
いながら皆を待つ事一時間半十時帰る 入浴を終へ日誌を付けながら窓
から映る月影を見ながら特に今夜は月が良い 少時眠るのを忘れてぼん
やり窓にすがりながら遥か故郷を思ひ出す

四月三日(火)

昨夜の夜間演習の爲め起床一時間延びた 八時半より初年兵の体力検査
を実施す 十時半より飯生方面に遊びに行く 行軍を行ひ着いてから見
晴しのよい神社境内に於て会食を行い酒等が出る 会費十銭は割安 会
食後来るべき軍旗祭の予行として娛樂会を挙行踊りや唄で四時間を費し
た 地方人も多さん見物に来た

四月四日(水)

今日ハ三月四日ノ代日休暇ダ 午前中ハ班内ノ清潔整頓 十一時頃初年
兵と共に班長と写真を写す 午後は金もないので近頃は不景氣になつて
了まつた Yでも少し送つて呉れたなら大助りだけれど戦友のリーベの
話が思ひ出される 余りにも薄情だ 少しは自分の事より俺の事でも考
へて貰いたい 併し唯自分丈コボシテも鳥も拾はない

四月五日(木)

午前中は射撃の爲め整列と云はれ整列すれば取止めと云はれ何の事なく
十時頃まで遊んで了まつた 十一時より初年兵の渡満するのを見送り一
時より大隊長の訓辞あり 午後も裏門まで行つて射撃取止め体力検査と
変る 全く活動写真の様だ 明日から軍旗祭の準備の爲め多忙 会ヒ五
十銭いたし伝票切る

四月六日(金)

起床頃雨が降つて居たので午前中の分列予行演習は取止む 全員軍旗祭
準備 公用証を持つて裝飾物を求めに行く 午後は二年兵は銃剣術尤も
一時間位で終り裝飾に係る 一日中裝飾の爲め多忙 八時頃R命令に依
り進級を知るさぞYも喜ぶ事であらう 併し唯ボラレル⁽⁷⁾爲位なものだ

四月七日(土)

午前中ハ明日ノ軍旗祭分列ノ予行演習ヲ行ひ正午近くまでかゝる 午後
は営庭に於て踊りの稽古を行ひ見物に行く 夕食後班内で甲班ノ会食を
行ひ各人種々ナ唄を唄ひ合ふ 班長殿がレコードやラヂヲを持つて来て
聞せて呉れた 仲々面白い 点呼はR講堂に於て矢張り予行が有り爲め
におくる九時三十分

四月八日(日)

第二十九回軍旗祭を迎へた此の日天気雲一つなく絶好ノ日和 一週間近
くも係つて裝飾シタ班内も舎前も営庭も今日は一般と美を増して居る
十時より分列式を始む 此の日特に第三代連隊長たりし現陸相林閣下及⁽⁸⁾
師、旅団長閣下も御出になる 午後は一時より営庭に於て種々余興あり
見物人も大勢、母も孫を伴れてYも思ひがけず遊びに来た 夕食後全員
で特に踊りに氣合を掛ける 五時近くまで騒だ

四月九日(月)

昨夜の飲み過ぎか今朝は頭がいたい 加へて今朝からの外泊者が三時からガタ／＼騒いで居たので仲々眠れなかった 起床ラッパは知って居たが遂に起きなかった 七時半特務曹長に呼ばれて事務室に於てヒカガミを延ばされてコン／＼と注意あり お陰で十時より日曜だと云ふのに練兵場に於て昨日ハ酒なりしが演習を行ふ 一時より使役 二時半より寝台上 今日又終へた

四月十日(火)

今日も休みほとんど外泊の為めひっそりとして居る お陰で明後日入隊する召集兵の準備に全員午後は香取郡の青訓が一泊の予定を以て来隊す Yより音信来る 外泊を待つとの事 何となく一刻も早く行きたい 何んな風にして迎へて呉れるか 又嬉んでくれるか 次から／＼へと種々の空想にふけりながら昔を思ふ 其の日其の夜総てが現実となつて現はれるを何んなにか待つて居る事でせう

四月十一日(水)

午前中は射撃午後同じ 併し明日入隊の召集兵入隊準備の為め午後は休む 五時より夜間演習八時終わる 噂によると外泊が無さそうだが何かと思ふ 折角待つて居てくれるYに對し噫何とかがして行きたい物だ事に依ると富士へでも野営に行くかも知れない由 夜は二時間延灯 声をからして初年兵を警りながら準備す 何しろ戦時演習の予定

四月十二日(木)

来るべき歩校連合演習の為め予備役召集兵集まる 一日中銃剣術五時半より夜間演習あり 毎日の夜間演習で困る 明日外泊の予定の所十時頃になつて野営出張の命さ あいた口もふさがらない 折角Yと共に楽し

い一夜を過ぎさうと思つて居たのに 併し特曹のビールの御馳走で遂に承知スル 床に入つても仲々ねむれない 何時となくYのことを思い出した

四月十三日(金)

朝から寒さが身にしみる 桜の花が咲くと云ふに冬の様だ 午後の特より明日よりの野営の軍装検査及編正あり 四中隊の一員となる 雨の中で一時間半も立てさせられる 四時頃から初年兵たちが嬉びながら一期外泊で帰郷す 若し野営へ行かなかつたら俺だつて今ごろは二装被服でYの所へ飛に飛んで行つた物を 明日は起床が早いので準備完了後直ちに休む 仲々思い出して眠むれない 尤も／＼

四月十四日(土)

五時半整列にて連隊を後にして七時半出発す 途中昨日の雨の為め道悪く加へて晴天の為め汗を流す 二時より瓦斯演習 四時終わる 初めての日直下士官の為特に多忙 酒保に行く暇など更になし 夕食がガンダの為め腹は特に空くグ／＼ 種々の仕事の為め十一時まで事務室にて多忙 三日月の月光淡く窓より吾等の枕許まで輝き唯戦友の静かに夢路を辿るヒビキのみ耳を打つ

四月十五日(日)

廠営の起床は五時、七時整列にて千葉歩兵学校に向ふ 学校に於て更に演習大隊の編成あり 第一小隊の第一分隊とは何んたる事だ 二時より対戦車、夜間作業等あり 六時疲れた足を引ずりながら漸くにして帰舎す 歯が悪い為め公用にて治療に行く 消灯後事務室に於て編成表を書いて居る 遂に十一時頃になつてしまつた

四月十六日（月）

食事が早く上るため二時頃より起されてしまった。午前中は幸にも雨の降って居たため班内に於て防毒面の装束を学校幹部の立合で練習す。十時頃より小降りとなつたため新戦法を行ふ。午後は雨の中で遭遇戦。千代田が岡で現役は仮設敵となる。雨のため防雨外套初め衣服が泥だらけ。お陰で予備さん機嫌悪し。

四月十七日（火）

昨日の雨もからりと晴れて雲一つなき上天気。例により広い原にて汗だくくとなる。五時より夜間演習あり。萱橋方面まで前進く。風冷し顔を打ち足先が切れそう。九時半頃終る。明朝は非常呼集があるからと云ふので兵器の手入れもそこくで休む。近頃は妙にYの事が思ひ出される。何うした事だらう。少しの暇があればYの事許り。

四月十八日（水）

Yの身に思ひを廻せ樂しき夢路を辿つて居ると非常呼集くの聲に飛び起きた。殆ど外の者は起きて居る。三時早速支度して舍前に昨夜と同じく萱橋方面の敵陣地に対して払暁攻撃の準備。広い野原も真暗。サクく霜柱をふみつゝ前進す。四月半ばと云ふのに二寸以上の霜柱、芝の上は一面に真白な霜。八時終る。三時まで休む。

四月十九日（木）

愈々中隊ノ準備訓練ヲ終リ今日ハ大隊教練ダ起床四時シテ五時半整列ニテ花嶋台マデ行キ七時状況開始ス大日山ヲ超ヘ萱橋近クマデ行キ終ハル午後ハ三時マデ体ミ夜間演習ニナル。八時始ル。歩校近クマデ行キ同ジク大日山付近ニ於テ壕を掘リ待機ス。サーチライトノ光リ重キ輕機ノ火花物凄シ。九時半終ル。相当腹が空いて居た。明日は起床が一時間延び

る。成るべく早く切り上げて休む。二人が一ツ床の中で休むのでなんとなく変な考が起きる。

四月二十日（金）

今日は撤廠準備。七時半ヨリ長沢少佐ノ注意事項アリ。正午中隊ノ特兵ガ下志津ヘ演習に來たと云つて立寄る。戦友が一番先へ飛び込んで来て御苦労様と云はれると悪い気持はしない。気合を掛け様と思つて居た心も何時か溶ける。午後は兵器検査等で多忙。七時より本部前に活動写真あり。お陰で今日の用便外出も取止め残念ナリ。下志津最後の晩なので十分気合を掛ける。

四月二十一日（土）

屋根打ツ雨ノ音ニ目ヲ醒シタ。折角ノ首出も雨デハガツカリシテシマツタ。九時撤廠準備完了シテ雨の下志津原を通ツテ歩校ニ向ヒ五時マデ休憩。七時五十分発ノ列車ニテ一路春雨シブル故郷ヲ後ニ裾野ニ向フ。途中所々にて万歳ノ声ヲ聞ク。渡満ト間違レタレ苦笑ス。田端駅ニテ二時間停車。但シ途中下車ノ予定ハ見事裏切ラレ貨物列車ノ引込線ニテ下車ドコロカ石岩等ト一緒ダ。

四月二十二日（日）

一晩中ヒタ走り夜明ケ薄ク右手ニ処女ノ如ク真白ナ姿ヲ現シタ富士山丈ガ嬉シデ吾等ヲ迎ヘテ呉レタ。板妻廠舎ニ着キ早々カメラニ収マル四周皆山。下志津等では見ラレヌ風景ダ。実ニ良ク箱根山ヲ舍窓ヨリ眺メル心持良シ。午後ハ五時デ寢ル。夕方冷氣若干身ニしみ薄モヤニ包まれた富士箱根連峰の姿実ニ芳シ。消灯後一人舎外ニ出で遙か箱根山を眺めながら思いに沈む。

四月二十三日(月)

此の演習中最も烈しい遭遇戦の実施の日だ 八時半整列にて行軍二里半 十二時状況開始のラッパの音と共に前進す 谷、山又山谷幾多の難関ヲ排シテ前進スル事三時間 小隊長ノ伝令トシテ途中一時瓦斯襲来、火を吹く新兵器 見学人も何百人と来て居た 全員顔が塩だらけだ 帰廠は六時疲れた 足を引ずりながら漸く着く 夕食半食空腹 大急ぎで酒保へ 満員の盛況驚く

四月二十四日(火)

七時頃よりぼつ／＼雨が降り始めた 今夜の終夜演習が思はれる 十一時整列すると本部より別命有るまで来て 皆大喜び其の仮舎内でグ／＼一時頃になつて取止めの報来る 雨益々強し二時より兵器検査あり 五時頃より娯楽会あり 予備兵が大いに唄ふ 仲でも仲々笑せる者が多い 全員腹の皮をいたくする涙が出る様だ 七時頃まで次へ／＼と或は追分安来節流行歌何んでもござれた

四月二十五日(水)

十一時整列にて昨日行ふ筈であつたが雨の為め延びた終夜演習だ 防毒衣ヲ背ノ〔囊〕ニ付ケ汗ダク／＼デ目的地ニ向フ 一時頃より横ニナツタ俣、瓦斯兵ニナツタ事ヲ嬉シダ 散兵ハ壕ヲ掘ツタリ前進シタリスル吾等ハ後方デグ／＼ 八時頃より前進十一時頃より前方へ瓦斯斥候ニ立ツ 寒氣烈シク手モ足モ切レソウ 体ヲガタ／＼サセナガラ廻ッタ 駆足デ回ツテ歩クソレデモ寒イ 睡眠ナゾ出来ルモノデハナイ

四月二十六日(木)

寒クテガタ／＼シナガラ夜明ケヲ待ツタ 箱根山ノ傍ラガ薄々明クナツタ時ハ漸クスクハレタ様ダ 愈々払曉戦ダ敵ノ鉄条網ハ幾重ニモ／＼廻

ラシテ居タ友軍ノ戦車ガ物凄ク音ヲ立テナガラ目茶／＼ニシテ歩ク 其ノ跡ヲ吾々ガ進ンデ行ク 或者ハ傷キ或者ハ戦死ス 悲惨ナリ 九時終ル 材料ヲ返納シテカラ帰舎ニ付ク 二里ノ山道デヘト／＼ 早速入浴、夕方マデグ／＼ 夜ハ今夜ガ最後ナノデ特ニ袋ヲ軽クシタ 頭イタシ

四月二十七日(金)

今夜も終夜演習だ併し此れが最後だ午前中撤廠準備完了し十一時半より所定の地に向ふ 三時状況開始八時頃より外套を着用すそれでも寒い 先日晩より烈しい山谷幾つも／＼越へ敵の重火器の中を前進して山中腹に付し足の先がいたい 霜柱がザク／＼して居る 富士山上より吹き下す風は逆もつめたい 十二時頃の寒さと云つたら話にも出来ない 五月だと云ふのに 今夜は月があるので闇の中に富士山がぼんやり姿を現して居る

四月二十八日(土)

山より吹き下しの風を一身に受けて寒さにふるへながら眠る事も出来ず 箱根山が白くなるまで 箱根山が薄く明くなつた時の喜び 如何許りや 八時頃で今度の研究演習も最後なのだ 今日限りで板妻廠舎ともお別れだ左様なら 正午まで種々な取片づけ 御殿場にて大休止 大いに気合を掛ける 外出す貴重品袋を見ると涙が出る 残金十銭也 十時〇八分 発車 グツトバイ

四月二十九日(日)

一晩中汽車の中にて騒ぎながら目を真赤にして東京を経て四時、佐倉駅に着いた 練兵場の草もだいぶ青くなつて居た 久し振りに戦友と共に雑食を、正午から剣術とは恐れ入つて了まつた 二時より外出 今年はまだ三回目 大いに気合を掛け七時半頃振られて(降られて) 帰る 顔

が何時までも赤かつた

四月三十日（月）

靖国神社大祭デ休ミ 八時ヨリ銃剣術競技会ヲ行フ 天氣の具合カ其れとも対手が余りにも弱すぎた為め偶然にも賞状が舞ひ込んで来た 併し實際の腕よりも若干？のお陰だらう 十一時より成田山へ 明日と四日の試合の武運長久を祈るため全員でお詣りに行く 参詣後例に依り二円三十銭の残金ヲキレイニ彼氏等の許へ 六時半、ユデタコノ如キ格好デヨロ／＼シナガラ帰ル 点呼早シ直ニ寝ム

五月一日（火）

大隊競技会の為め起床早し昨日ノ飲ミ過キノ為め頭ガイタイ 此レデハ勝テソウモナシ力戦奮闘タツタ四本トハ情ナイ 何シナ顔あつて山口軍曹殿ニ会ヘヨウカ 総点ナ於テ二年兵ノミタツタ一本ノ差デ負ケタ 併シ未ダ下士官ガ残ツテ居ル 動員演習の話デ午後ハブラ／＼班内ニ残ル 営庭ハ既ニ石灰ニ依リテラインハ引カレ所々ニ立札ハ立テラレ物々シイ

五月二日（水）

警備演習第一日 七時整列して各所属部隊へ分遣せられた 俺は三大隊ノキカン銃へ配属せられて戦地へ行く段取となつた 中隊も殆ど戦時の様な忙しさ 将校達も今日は軍刀を持つて本当に動員が下付された様だ

五月三日（木）

召集兵が除隊の為め四時頃よりガタ／＼さわいで眠むれない とう／＼五時頃起床してしまつた 今日には戦時防空演習待機の姿で居ると八時命令下る それと許りに出場 川崎第一日予行警備の為め俺以下四名軍装を整へて営庭に整列 種々の品を配及されて十二時近く終る Yよりの

返事あり 余りにもあつけなし悲歎

五月四日（金）

待ちに待つたる競技会過去一年間鍛へに鍛へた腕を発揮するのは今日だ 八時ラツパ一声開始サル「確リヤレ」と励しながら見送ル 午前中ハ成績良好十一時頃ヨリ苦戦 筆者万全ノ力ヲ出したが恨をのんで唯つた一本 何の顔あつて幹部に会はれ様か とう／＼僅少の差を以て敗れた 三時より特曹に願つて外泊を許可さる 週番交代を待つて一飛びに故郷へ帰る 電車も今日は遅し

五月五日（土）

不図目を醒したら五時少し過ぎ 今一眠りと遂に九時頃まで

五月六日（日）

二泊の外泊も終へて帰宅だYと最後を別れて成田に詣でYの厄を払ひ帰営す 早速軍装を整へ本夜の終夜演習の準備に多忙 十時半出発にて習志野に向ふ 途中の民家は殆ど眠て了まつた 志津あたりより道を間違へて大失敗す

五月七日（月）

フラ／＼としながら行軍を続け大和田辺では薄明くなつた 家々の窓より煙が開始した高津より一線に出で中隊教練を行ふモヤ深し フウ／＼スル一時より射撃開始 特別射手の一人として射撃を行へど弾はいやがつて何処かへ飛んで了まつた 二十発分射つて一発も当たらないどうかして居る 第一夜を星を眺めながら

五月八日（火）

起床ラツパで漸く目を醒した 今日も広い原で終日演習 六時より夜間演習も実施す 風少し強く出 寒気を考^{モウ}むる Yより久し振りにレター来る 何時とも違つて細々と書いてある 可愛想だ 若し家にでも居たなら十分可愛がつてやれるものを 偶々外泊に行けば小使をせぶるし併し身軍籍に有る以上今少しのがまんだ辛抱してくれと祈る

五月九日(水)

朝から大した風だ 独特の習志野の風だ 砂塵ヲ卷つて逆も凄い 八時より戦闘教練中隊長以下真黒になつて早駆前へ 何回となく繰返す 二宮の三山にて昼食す 午後も同じ 顔中ホコリだらけまるで人間離れだ 六時より明日の非常呼集の準備の爲め原に於て入浴後の顔を再び真暗

五月十日(木)

二時十分非常呼集の叫びに飛起きた 真暗だ仮設敵として行つたら又攻撃部隊の一員となつてしまつた 七時頃まで 午前中は兵器被服の手入 撤廠準備 午後は対戦車新戦法 午後四時より先発隊となりトラツクにて長沢池に向ふ トラツクとは悪くない 十時頃まで夜間演習 次には天幕露営 暴発して特曹より叱られる

五月十一日(金)

朝食ノ分配等で遂に一時過ぎて了まつた せま苦しい天幕の中で込みくししながら夜明近くまで過した 其の間水の様な竹の子汁で空腹を満たして満足する 四時より状況開始 払曉戦を行ふ 朝食後帰營の途に着く 十時帰營す 兵器被服ノ手入後四時近くまで体も今日は馬鹿に体が重い 夕食が待遠しい 夕食後点呼は七時半 愈々本日夏襦袢、夏衣袴が支給された 除隊も微々近くなつた跡六十八日目か

五月十二日(土)

午前中ハ兵器検査及被服検査準備正午ヨリ週番下士官初めての爲め諸注意アリ 勤務多忙中隊長ノ前デ堅クナツテ半日ヲ過ス 今日ノ午後ハ長し 夜ハ種々ノ用事デ多忙 消灯後モ班内巡視等デ仲々忙しい こんな商売ハもう多サンダ 午前二時から巡察ヲ命ゼラル ガツカリスル 早ク休ム事ニ仕様

五月十三日(日)

朝から雨だ折角の日曜も週番で外出出来ずがつかりして居る所なので辛だゆつくり仕様と思ひながらも遂に勤務とあれば眠る理由にも行かない 午前中は各班共大掃除を行はせ正午より外出を許可す喜び勇んで雨の中を外出する野郎其其の顔がいやにくらしい 午後は金十銭を奮発してライスカレーを食いたい 夜は若干明日の準備で多忙 巡察等で又今夜も十一時

五月十四日(月)

暇だと思ひの外七時頃から目の回る様な忙しさ 衛兵も遅れて文句を言はれ帰つて来ると眼鏡が湯気を出しながら角を立て、居る危なくて近よられない 朝食も午前九時半だ腹がグーグー 午後も同じ明日は大隊内務検査だ種々の書類の整理等で鯛の様な目付をしながら十二時まで事務室だ 何んと言つても眼鏡が居るので眠るわけには行かない 噫週番は辛い 又明日は文句を言われるか

五月十五日(火)

起床時間繰上げて四時半 早速寝台を全部室外へ出して大掃除午前中に完了 午後は一時より大隊内務検査 ビクくしながらウロくして居た 併し大した質問もなく終つた 種々な注意に基き又最後ノ連隊内務

検査ノ準備に係る 消灯後今日の注意に基キ勤務録等の整理ニ余念ナシ

五月十六日(水)

今日も一日中準備午前中は兵器庫の使役で殆ど午後本部と使役の
会報許り 延灯を二時間其れでも満足と云へない 十一時頃から事務室
等の清潔終つたのが十二時だ 先づ一服と煙草を口にしてうつとりとし
ながら思いを故郷に走らせYの顔を浮べた 噫今頃はどようして居るかし
らきつと楽しい夢路を辿つて居る事であらう 神よ彼を待つYに幸を宿
らせ給へ 煙草が消ユルノモ忘レテ只管…?

五月十七日(木)

三度起されてやつとの事で床を離れた 全く眠むい 夜は遅いし朝は早
いし 如何にせん 勤務■ノ吾最善を尽さんと内心ビク／＼しながら八
時半頃まで準備完了 十時より開始R幹部始め来りキヨロ／＼しながら
歩き回つて居る「君子危きに近よらず」同感 事務室等へは入れない
廊下にウロ／＼しながら時計の針は進む 午後は射撃

五月十八日(金)

昨夜は週番交代して消灯と同時に休む 久し振りで^{アツ}の早く休む 午前中
は射撃 事務室にて特曹より六十日目に除隊と聞きなんと喜しかった事
よ これで漸く安心した 跡五十九日で可愛いYとも共に日々暮らせる
か 今度は非常呼集があると云ふ噂でビク／＼ 六時半から夜間演習
十時頃かへる 入浴後皆の準備して休む 何んとなく今日は嬉しい

五月十九日(土)

タツタター突然静かな夜を破つて喇叭の声、ハット思つて全員に起床
号令 其後は目の回る様な忙しさ 整列して営庭に行つて軍装検査が四

時頃 部下分隊の兵が服装が悪いとて中隊長にいたく叱られた グレダ
加へて十一時よりの命課布達式の整列も遅れたのでカン／＼ 上ト兵以
上事務室へ集合して油を絞ラル 今日には仏滅か悪日だ

五月二十日(日)

午前中は班内の清潔も九時頃終了 此んな日には面会人でも来れば良い
午後は外出の予定の所貴重品袋を見たら涙が出る 外出も取止めた一
人で寝台の上で満足した 伝票を切らうか切るまいか一思案だ 明日は
射撃で起床が早いから休むと仕様

五月二十一日(月)

五時起床にて射撃 依然として振はない 発射弾五 総点二点とは情け
ない 去年の成績は何所へやら 午後は娯楽所に於てR長の講評あり
唯員数として行き約一時間半ノ講評中グーグー寝て許り 何んの話をし
たか少しも分らない 夕方射撃 兎角R特射^⑩までは射撃で又シボラレ
ル 中らない 確りやらう

五月二十二日(火)

今日も三十分繰上げ射撃瓦斯ノ助手になつたので演習に出た 午前中は
学科で居眠り許り 午後は瓦斯消毒班長であるの防毒衣を着てフ／＼し
ながら消毒 夜は明日大隊長の巡視があるので一時間延灯して準備す

五月二十三日(水)

午前中は瓦斯演習 十時頃余り眠むいので先へ失敬して班内で休与、午
後は軍装検査準備なれど今日の忙しさ近頃珍しい食料運搬車ノ検査 防
火用馬穴ノ返納 梱包材料ノ至急 練習用具の梱包用意明日の材料日夕
点呼迄一服の暇なし 商売繁盛 入浴の暇もなく消灯後も幹候の班では

準備 明日は終夜演習なので早く休みたいと思ひながら遂に十一時迄になつて来た

五月二十四日(木)

午前中は休与の予定の所曹長ノ使役及ビ準備で仲々寝台上に横〔た〕はる暇など更になし 午後一時整列にて下志津に向ふ、佐倉街道ヲ大和田に向け前進 日はから／＼と照りつけ滝の如く流れる 時正に三時一天俄かに曇り雨篠ヲツ、民家ニ入り休憩 一時間不幸にして休む 雨に濡れた下志津原頭に於て遭遇戦に 白暮攻撃に夜間演習に演習に寒さにふるへながら時計の針を進める

五月二十五日(金)

時計の針は思う俟に進まず 夜明けは長い 斥候の壕〔壕?〕ノ中で夜明けを待つ 東天白くなり愈々最後の払暁攻撃に■ル 敵陣地ヲ突破して七時終了 三時まで休与の後又夜間演習に変わる 此度ノ検閲が夜間演習なので夜間演習の準備許り 九時より将校酒保に於て予定以外の赤字が 冷や／＼しながら遂々一杯二杯金時の様な顔になつて満足しない

五月二十六日(土)

昨夜ノ夜間演習の為め起床一時間半延びたり 併し久し振りの板の上なので背中がいたくて仲々良く眠むれない 午前中は班内休与、午後は又夜間演習の準備 四時より実施 何しろ今度の検閲の着眼点が瓦斯消毒と来て居るから任務は重い 消毒班長トナリあの防毒衣を着用してフ／＼しながら消毒 襦袢が濡れて体ヒヤ／＼とさわる冷さ身に沁む

五月二十七日(日)

あんなに遅くまであつたのに今朝は起床は延びない、尤も戦闘射撃だか

ら止むを得ない 午前中一杆射撃 一発ノ薬莖ノ為め一時間も全員で這ひながら探し始めた 漸くさがして帰れば中隊長ノ学科 分隊長以上米を搗きながら事務室で一時間半 今夜も夜間演習 何んと夜間演習の繁盛する事よ Yのことでも思ひながら休む／＼

五月二十八日(月)

起床は七時明るくなるまで寝て居るもの悪くない 大急ぎで朝食を済まし友軍探索部隊として執務に付く 第二中隊検閲に付小生一人で一中隊長として初めて中隊長として出場す 大隊長が第一中隊長と呼ばれた時ハイと云ひながら手を上で九時半まで掛かる 途中名月を眺めながらそぞろ故郷を思ひながら

五月二十九日(火)

二時です／＼と呼ばれてやつと目を覚ました 何ら勤務とは云ひながら辛いね 真暗だ 皆は良い気持で寝て居るのに俺一人は 八時一時終り又休みなしで早速次の中隊長として出場 大日山付近に於て旗を立てた俣一眠りと思つたら目がさめない 既に状況終りが 帰舎したら未だ皆朝から昼食も食べないで寝て居る がっかり

五月三十日(水)

愈々本日受検だ 今まで毎夜の如く眠る目も眠ずにボラれて通した総決算日だ 午前中は準備 午後は一時整列にて受検場に向ふ 例に依り消毒班長だ 瓦斯地帯の消毒防毒面も覆はず消毒して怒られる 班長大に活動 通路五本ヲ作つて任務を尽す 襦袢までびつしより 十一時終わりに 入浴をすましたら十二時過ぎ

五月三十一日(木)

昨夜あんなに遅くなつたのに一時間の起床延びではやり切れない、そこへ持つて来て八時撤廠とは何んと忙しい事よ、八時までの忙しさ 今日
は入営以来初めての微発の爲め部隊出發後三時間も昼寝 二時の汽車にて帰營 官費だから満点だ 明日はYが面会に来るとの報に衛兵も蹴とばして只管明日を待つ 早く今夜が明ければ良い 除隊も近くなる面会も来る 幸福なる日よ

六月一日(金)

午前中は兵器及被服の入手及び一日中陣営具練習用具ノ入手 Yが午後面会ニ来ルトノ報二十一時頃ヨリ仕事ガ手ニ付カヌ 十一時半昼食喇叭ガ鳴ツテモ遂ニ来ナイ 何ウシタロウ 一時、未ダ来ヌ、窓カラ何度見テモ駄目、二時頃衛兵ガ一人大隊ヘ向ツテ来タ 嬉ビヤ如何、大急ギデ服ヲ下シテ待ツテ居タラ他中隊ヘ行ツテ仕マッタ 噫又裏切ラレタ残念ナリ 思切レ

六月二日(土)

今日モ一日班内掃除、唯四人デ清潔デワ抄ラナイ ソレニ加ヘテ四日ニ行ハレルR軍装検査ノ為メ新品被服ガ種々支給サレ仲々忙シイ 陣営具ノ修理、何回トナク工場ヘ 教育用消耗品事務用消耗品ノ請求、班内ノ清潔所カ、自分ノ事許リデモヤリキレナイ 明日ハ衛兵ナノデ初メテナルガ万全ヲ期スベク服務計画等デ消灯後約二時間モ頭ヲヒネリノ

六月三日(日)

若干不安ニ駆ラレナガラモ表面丈ハ樂觀ヲ見セツ、服務ス 今日ハ日曜デアツタ為面会人ワンサノト押シヨセタリ 仲デモ近々渡満スベキ第九中隊ニ入隊シ居ル可愛イ孫ト或ハ己ガ一人息子ヘト親兄弟揃ツテ来リ面会所ニテ涙ヲ流シ又ハ強テ笑テスル者アリ 此レ真ノ骨肉ヲ分ケタ愛

情ト云ヘ様 夜十二時頃ヨリ雨一際強ク降り始メ停電二時間ホト困ル何ント運ナキ我カナ

六月四日(月)

眠ムイ目ヲコスリ乍ラ漸ク東太白ミカカル一晚中空想ニ許リフケツタ精カ頭ガ少々変ニナツタ 異状ナク申送ツテ一安心、大急ギ兵器ノ入手モソコノ毛布ノ中ヘ 午後ハ学科後陣営具練習用具ノ入手及溝渫、何シロ特命檢閱ガ迫ツタノデボヤノシテ居ラレナイ 消灯後マデ忙シイ併シ跡四十五日カ 悪クナイ 毎日忙シクテモ

六月五日(火)

今日モ特檢準備班内ノ清潔整頓午後ハ一時半ヨリ中隊長ノ内務巡視食卓及受持掃除区域迄、舍後塵箱カラ何ント吸殻人等多サン出タ 驚イテ了マツタ 何ンボ員数ガ余ツタトテ捨テナクトモ良サソウナ物ダ、学科デハ命令ノ下達ガ悪いトテ理由書ヲ書ケノ処罰ダト叱ラレル 今日モ終ヘタ 段々迫ル故郷ニ錦ヲ飾ル日モ 併シ考ヘテ見ルト長イ様デ短イ物ダツタ 早ヤ一年半近クニナル 窓カラ外ヲ眺ムレバ遙カ角来ノ町モ静ニ夜ノトバリニ闇ノ中ニ眠ツテイル

六月六日(水)

午前中ハ軍装検査ノ準備、併シ内務巡視ガ有ルト云フ噂ナノデ諸規定ノ履行デ忙シイ 午後ハ二時ヨリ軍装検査 今日ハ中隊カラモ儀仗衛兵ガ出タリ中隊長以下兵ニ到ルマデ皆全員ガ一致協力、受檢ノ為メニ邁進シツ、アル 点呼後モ矢張り多忙消灯喇叭モ近頃ハ床ノ中デ聞イタ事ガナイ 今夜モ種々ノ準備ヲ終ヘタラ十一時ダ 況ンヤ非常呼集ノ話モ有ル一刻モ早く休ンデ明日ハ万全ヲ期ソウ

六月七日(木)

毎日／一日中朝カラ晩マデ班内ノ大掃除、舎前舎後の溝渫倉庫ノ掃除等仲々の多忙であつたが愈々今日受検だ。午前四時起床、六時整列にて練兵場に向ふ。特命検閲使陸軍部内切ツテノ頭脳家阿部閣下ヲ迎ヘタ。一時間半にて終ル。午後八班内休与、中隊ハ内務巡視ノ予定ノ所何モナカッタ。何ントアツケナイ。六時半頃入浴中突然非常呼集だ。入浴中其ノ促大急ギ。アハテルナ。

六月八日(金)

明日ハ第一師団ノ諸兵連合演習ノ為メ午前中カラ準備。今夜ハ砲兵隊ガ宿泊スル為メ寢台ノ借用食器ノ支給等デ目ガ回ル。午後三時カラ大隊ノ軍装検査、タハ六時半点呼七時消灯。

六月九日(土)

午前二時三十分起床。諸般ノ準備ヲ完了シテ営庭ニ整列シテR長自ラ陣頭ニ立チ出発ス。午前九時状況開始、吾ガ三小隊ハ右翼隊トナリ本隊ト別レ八里ノ道ヲ下志津(成田ヨリ)ニ向フ。八軒以上ダ二本松ニ着イタ時ハ三十九人ダツタ小隊ガ十六人。大日山デハ八人。柏井デハ一〇八名ダツタ中隊カ二十八名。如何ニ苦シカツタカラ表ス。吾ガ分隊ハ長一人丈ナノデ輕機ノ長トナリ自ラ銃ヲカツイデ一里、未ダ／＼と思イナガラモ身ニ応ヘル。

六月十日(日)

六月ダト云フノニ仲々寒イ。体ハ冷ヘル眠ムイ目ヲコスリナガラ夜明ケヲ待ツ時計ノ計モ仲々進マナイ。午前三時敵一ヶ大隊ノ襲撃ヲ受ケテ退却ノ止ムナキニ至ル。四時半モヤ以外ニ強ク一寸先モ見エヌ有様。毒瓦斯ノ襲来、飛行キノ爆撃重キ輕キノ音、突撃ノ声、物凄ク小隊苦戦。腹

背敵ヲ受ク。五時半終ル。十日着営。昼食も食はず六時半までぐつすり予行演習に出ないとして寢台共返サレル。

六月十一日(月)

代日休暇タ午前中ハ寢台ノ返納陣営具ノ整理。午後ハ何ンノ事ナク日ハ暮レタ。今日モ終ツタ。明日ハ小隊長トシテ出演カ。

六月十二日(火)

歩砲飛合同演習ニ参加ス。一昨日、特命検閲デシボラレタ許リダニ又下志津行トハ情ケナイ。併シ今日ノ程度ガ上ツテ小隊長トシテ指揮ヲ取ルノダ若干興奮セズニハ居ラレナイ。汗流シテ下志津ヘ。小隊長戦闘間居眠リをして大隊本部より二〇〇Mも遅レテシマツタ。併シ何ラシボラレテモ先ガ見ヘル、今日モ又終ヘタモ同ジ。

六月十三日(水)

急ニ他行外出ガ許可セラレ朝食後帰省ス。家人モ喜ブ。Ｙノ家ヘ行ツタラ母ガ用事アリトテ船橋マデ行ツタ。噫何タル悪日ダロウ。今マデ耐ヘテ来タノニ今日除隊間際ニナツテ「随分粗暴ネ」軍人ラシクモナイ。何クラウエテ居ルトハ云ヒナガラ何ント卑シイ事ダロウ。併シ今日ノＹハ何時トモ違ツテ尤モチヤンスガ有ツタトハ云ヒナガラ喜ンデ迎ヘテ呉レタ様ダツタ。帰営後モ上衣ガ白粉臭イ様ナ氣ガシテナラナイ。

六月十四日(木)

午前中ハ射撃。午後ハR長ノ訓詞アリソレヨリ三時ヨリ一部外泊アリ。小生昨日帰省シタ許リダニ又明日行クトハア、嬉シイ様デモアリ氣後レモスル。タ特務曹長ノ学科アリ其ノ際笑ツタトテ四ツ許リ。今マデ叱ラレタ事ハ有ツテモナガラレタ事ハ無カッタノニ。除隊間際だと云フノニ

無念残念此ノ上モナシ 若シ軍人デナカリセバ彼对手ニ一ツ吾ガ腕ヲ見セテヤルモノヲ 噫ヤルセナキ吾ガ此ノ身ナリ

六月十五日（金）

又外泊許可さる 一昨日行つた許りだに本年になつてから既に六回 未だ年末休暇に行つた許りの者の事を考へると大変すまない様な気もすると云つて交代する気もなし 午前中は偽装網の使役に種々注意を与へ午後一時裏門より 千葉にて活動見物の後帰郷す Yは集金の為め不在待てど暮せど来ない 夜友人と共に二三升飲み歩き結局例に依り大きな家までと落着く

六月十六日（土）

昨夜は変り替の為め到々物にならず二時帰宅こつそり床の中へ 九時まで起きられない 午前中は役場学校等を印を貰ひに 今日はどうしたのかYの風何か悪い 母も然り 夜態々小使を呉れと頼みながらYの許へ頭を下げた 陸軍上等兵兵営では威張つて居るがYの許ではすつかり駄目だ 情けないかな自己の姿よ 併し限られた生活ではこれも止む得ない 併しYは承認してくれない

六月十七日（日）

今日も起きられない八時又Yの許へ 何ら頼んでも呉れない 面倒臭いもう頼まない 何ら何んだつて人を馬鹿にして居る 昨夜は承知して居ながら今日になつて嫌だとは つく／＼先が思はれる こんな家で一生暮すとは情けない 母の様子でも然りだ 特に頼みに思ふYがこんな様では一層もう絶交だ 併し俺はYの体に対する責任がある 噫若気のあやまりだつた 七時無事帰営す

六月十八日（月）

外泊中毎朝ゆつくり起きたので今日は仲々起きられない 午前中は中隊の特射 依然芳シカラズ 午後は演習に出ず班内に於て使役を取りて偽装網を作ラセ自分ハ梱包準備 点呼後モ明日の出発準備や梱包用意それに消灯後は更に偽装網を作る 又今夜も遅くなる 併し跡三十日か

六月十九日（火）

午前中ハ軍装検査 今夜ハ愈々出発ナノデ午後ハ休与 二三日前カラ風邪ノ気味、今日ハ非常ニ頭がいたので昼食後直ちに寝台上、五時近く目を醒した 夕食も旨くない 何を食べても今日は駄目 十時半起床にて十一時営庭に整列す 小雨が飯の様に静かに降り初めてだ 次第／＼に強くなり軍旗を迎へて営門を出る頃はち／＼雨だ 一時三十分佐倉駅発

六月二十日（水）

眠様^{マド}と思つても仲々眠られずと／＼する内に早や品川駅に付く 夜は全く明け離れて雨はだん／＼強くなり初めた 品川を出て一路東海道を山から流れる水は滝の如く物凄き 下車後休憩の後雨の中を滝ヶ原廠舎ニ向フ 廠舎へ付イタ頃は腹マデビツシヨリ 初年兵ノ動作ガ悪イトテ班長よりサクジヨ⁽¹²⁾「索杖」で四つ、近頃ニナクイタカツタ

六月二十一日（木）

昨夜ハ近頃ニナキ暴風タツタ 廠舎ガ吹キ飛バサレサウニナツタ 午前中ハ七時中隊長ノ舎内巡視アリ 八時ヨリ全員猿又一つで駆足デ大郎坊ノ上マデ往復シタ帰ツテ来タラ中隊長ヤ幹部ガ非常ニ心配シテ方々見付ケテ居タサウダ 午後ハ中隊長引率デ御胎内ヲ見物旁々行軍シタ Yニ特ニ安産ノ御守ヲ求メタ 嘸ズ嬉ブ事ダロウ

六月二十二日(金)

今朝も雨 七時ヨリ開始ダツタ 大隊教練も一時間延期シテ八時ヨリ今朝は特に霧が深い 六郎山及山を攻撃後第一大隊仮設敵トナル 午後八大シタ事ナク休ム 夕方予行演習ニ下駄デ出タト特曹ニ叱ラル お陰で早駆三回 昨日買ツタオ守リヲ開ケテ見タ Yハ何シナ顔ヲスルカ、赤イオ守リハ俺ガ 安産ノオ守リハYヘ ソシテ二人ノ仲ハ永久ニ幸アラント祈ツタ

六月二十三日(土)

四時半起床にて小隊戦闘射撃正午過ぎまで 三時帰營スルト直グ整列にて大隊ノ夜間演習だ 馬頭塚より一木塚ニ向フ 遙カニ眺ムル箱根山及富士連山何ント景色ノ良イ事ヨ 八時過ぎヨリ愈々攻撃 併シ蚊ノ襲撃ニハウンザリ大事ナノ顔ガ變形シテ了マフ 十時一時終リ 明朝ハ三時ヨリ払曉戦タ 入浴ガ終ツタラ十一時半 何ウモ休ム時間ナシ

六月二十四日(日)

非常呼集ノ声に驚かされた 正二時半 諸般ノ準備ヲシテ昨夜終つた一木塚付近で四時状況開始ス 六時頃斥候に出で野ぐそをしてMを蚊に食われて先が真赤にはれた がっかり 午前中は休みで午後は又夜間演習 今度は瓦斯兵として何もせず大隊の後尾続行 こんな夜間演習ナラ毎日でも平キ 十時半終ル

六月二十五日(月)

今日は大隊の遭遇戦ノ予定の所雨の為め取止めとなる お陰で半日射撃予行演デ休憩トナル 午後ハ特種火点トーチカの見学して攻撃演習を行ひ六時半帰廠 今夜は特に晴れて山の頂上が良く見える 月光は窓より入りて故郷を思ひ出し唯涙が出る様だ

六月二十六日(火)

雨続きの為め前日の射撃を今日行フ 午前中は休与、午後一時より小隊の戦闘射撃 狙撃手として出場、其の成績芳しからず劣等なりと大隊長より講評あり 午後は直下士 消灯後は返って忙しく明日の大隊教練の準備材料等でR本部経理室一百度詣り 十一時過ぎまでかゝる

六月二十七日(水)

起床一時間繰上げてトーチカに向ふ 今日モ瓦斯班 六時半着く 十時半まで休憩して状況開始 谷又山又谷を取越へノ特種火点まで進む 其の間草深く大いに悩む 帰廠三時 直ちにソーダ水五杯 それでも咽がかわいて居た 如何に演習が烈しいかを証明す 況ンヤ制毒車を持つて行くに於てをや

六月二十八日(木)

午前中は川柳より状況開始で遭遇戦 廠舎付近の原で終る 午後は三時半より今日より始まる大隊教練検閲の對抗部隊として宮塚付近に配備す 何たる幸ぞ今夜の演習は証明灯係りを命ぜらる 早く云へば状況外だ 配備終つて一先づ帰廠 十時起床で宮塚に向ふ 正午十二時状況開始さる 月冴へてまるで真昼の如し 照明灯ハ交サ(差)シ物凄き

六月二十九日(金)

照明灯ヲ以テ敵ノ前進ヲコバミツ、夜明ケヲ待ツ 併シナガラ敵モ種々草地ヲ利用シテ盛ニ斥候ヲ以テ友軍ノ状況ヲ偵察セントスル 其ノ度事ニ射チ出ス輕キ 一步モ寄セマジト光リ射チ続ケル 併シ四時夜襲サレ友軍退却ス 照明灯係ハ材料撤ツテ先ヘ帰廠 部隊ノ帰ルマデ三時イナゾマノ如キ照明灯其ノ光ニ描キ出サレル斥候部隊 間許リお先ヘ休む 午後モ休与

六月三十日（土）

今度ノ野営ノ目的ノ一ツタル大隊教練ノ受検日ダ 午前中ハ編成及準備
○時三十分出發特種火点一K手前にて状況開始五時ヲ待ツ 今日ハ特ニ
師団長旅団長閣下ガ見学遊バサレタ 谷、溪、山、幾度トナル乗り越ヘ
く工兵隊ノ行フツタ簡易発射器ト同時ニ突撃ス 時正二九時 危ブナ
ク空模様モ逐次晴レテ靈峰富士モクッキリト姿ヲ雲ノ上ニ現シタ

七月一日（日）

疲レタ足ヲ引ズリナガラウトくシツ、行軍ヲ続ケ印野村小学校ニ着イ
タ時ハ○時三十分、一時半許リ小憩ノ後更ニ第二ノ状況タル鏡原ニ向フ
朝霧深ク一寸先ハ見エヌ 突如脇ヨリ浴ビセラル、軽キ、霧ニ映リテ丸
ク輪ヲ書キ物凄ク、不規ニ現ル、敵ヲ撃破シテ宮塚ヲ占領シテ終ル R
長及旅団長ノ講評アリ 上成績ヲ以テ終了ス 午後モ休与

七月二日（月）

富士登山モ都合テ取止メ一日中休与 唯午前中は梱包準備 午後ハ編成
ガ有ツタダケ 明日衛兵ノ為メ準備完了後ナシ 点呼六時半消灯七時

七月三日（火）

四時三十分起床にて旅団演習に出張す 吾等残留者は一通り掃除後別に
用事モナク横ニナル 残留気分は嫌ガ上ニモ良カツタ コンナ呑気ナ事
ハナイ 午前モ午後モ食事を済ませば直ニ横ニナリ好きな雑誌許リ読ン
デ居タ 五時半より衛兵だ

七月四日（水）

野営間ノ衛兵ハ最初ダ併シ此レガ最後ダタ方ノ交代ハ其ノ晩ハ良イガ今
朝ノ眠ムサワ格別、午前中ハウトくシナガラ、九時頃部隊帰廠ス 大

隊長代理ニ欠礼シテ叱ラル 五時半、異状ナク申送ツテ帰ルト部隊ハ出
場後デ唯ダ後発ガ後始末ヲシテ居ル 曹長ヲ尻目ニ入浴後明日ノ帰営ノ
準備ヲシテ休ム 今後ハ部隊ガ遅ク帰ル予定ナノデ又起サセルカモシレ
ヌ

七月五日（木）

午前一時頃部隊ガ帰ツテ来タ為メ起サレタ 眠様と思ツテモウルサクテ
寝ラレナイ トウく三時半起床マデ横ニナツタ丈ダ 起床後直チニ撤
廠準備 十一時二十分御殿場発ニテ愈々屯営ヘ帰営 途中風景ヲ眺メテ
モ仲々暑ク列車ノ中ガ蒸サレル様ダツタ 故郷ヲ通ル時一寸降りタクナ
ツタガ止ム得ナイ 八時半無事帰営

七月六日（金）

昨夜ワ二週間振りノ寝台上ダツタガ■南京虫ノ野郎共ガ待チニ待ツテ
居タト見エテ寄ツテ来ルガく加ヘテ蚊帳ガ梱包ノ為メ使用出来ナイデ
トウく南京虫ト蚊ノ為メニ一晚中寝ラレナカツタ 午前中ハ梱包ノ整
理午後ハ兵器検査 酒保ニテ久シ振りニ佐藤君ト雑談ニ耽ケル

七月七日（土）

中隊ノ特別射撃ダ 今日ノ慰労休暇モオヂヤン 成績極メテ不良 初年
兵時代ノ成果ハ依然トシテ上ラナイ 午後ハ外出ノ予定ノ所何タル事ダ
週番ト来タ 午後一時頃母ノ面会アリ 日曜デモ寝台上ニ横「タ」ハル
事ガ出来タ 噫週番勤務ノ嫌ナ事

七月八日（日）

日曜モ何のそのと許リ今日も射撃 午前中一杯 午後は縮竿を求める他
行許可さる 家人も嬉んで迎へた Yの家へも 母は今日は気嫌が良か

つた 併しYは思つた通り唯一言も迎へてくれなかつた 少し位笑つたとて何にならう 一言も話さず 用済次第直ちに帰宅 除隊準備の相談後帰営 点呼後用事有つて十二時まで事務室にて

七月九日(月)

射撃愈々唯ナラントスル時宛モ大隊特射ダ 週番ノ為メ皆の当分留守居ダ 交代して射場へ 一本ノ指ノ動キ 其れは射撃章ノ名譽中隊ノ名譽ニ掛はる事大なり 幸にして高点にて入賞す 併し中隊の成績余り芳しからず 遂に十一中隊へ譲つて了まつた Yヘレターでも書かうかと思つたが幾分かペンを取つたが迎も書けなかつた 彼の気持は依然同じかしら?

七月十日(火)

毎日〳〵据銃演習予行演習の結果が現はれるのだ起床後直チニ整列して射場ニ向フ 皆必勝ノ信念堅シ 併シ乍ラ天運吾等ニ■マズ遂ニ大敗ケ最後尾トハ情ケナヤ 小生大イニ振ヘドモ昨日ノ如クナラズ 今少シノ所へ賞状逃ス 本日下午士適任証付兵ノ者ノ序列評定試験アリ 成績芳シカラズ 勤務特ニ多忙 併シ除隊間近ニ 跡今眠ムレバ七日カ 悪クナイネ

七月十一日(水)

又起床四時起床所が仲々布団ノ奴俺ヲ離サナイ モウ少シ〳〵と別レ難イ 無理モナイ起床同時消防演習有リ 出場シナイウチ週(番)副官ヨリ延サレル 今日モ一日中射撃 午後幹部ハ吉田大イ殿ノ葬儀ノ為メ全部参列シ中隊ハ俺一人 用事モナシ自然ニYの事許リ考ヘ始メル レターデモイヤ出スマイ 向フカラモ来ナイ 出ス必要ナシ 片意地ダ

七月十二日(木)

今朝も四時全員射撃 毎日射撃許りですつかりあきて了まつた 何しろ中隊で俺一人しか残らない 用事もないあきてしまふ 夕方明日の衛兵と聞いてうんざり 併し最後だもう一生衛兵もないだらう 確りやらう又思出したYの事を 今頃はどうして居るか 指折り数へて待つて居るかしら?

七月十三日(金)

今朝も四時だが今日は衛兵の為め五時半まで休んで了まつた 最後の勤務に何も 小雨は依然として降つて居る 週番司令が仲々矢可ましい様だ 面会人も大して来ない 夜は更けるにつれて眠むい事〳〵 迎もやりきれない 遂うと〳〵してしまふ 巡察も雨では臆苦だ

七月十四日(土)

眠むい目をこすりながら漸くこらへて夜の明けるを待つ 真夜物語でも書いては読み読んでは又書き丁度四時頃まで 異状なし交代して戦友の買つた雑食を口にしながら寝台へ 二時頃まで起きなかつた 陣営係を申送つた 夕方まで 明日は最後の射撃だ それが終へたらもう除隊だ休んで良いかしら

七月十五日(日)

起床同時に幸に勤務者として汽車を以て下志津に向ふ 四街道駅にて下車後特務曹長の忘れ物を取りに駅まで行く 第二回特別射撃の成績は依然中隊は殿り 中隊長御氣嫌すつかり斜め 帰営は駆足だうんざり 加へて八月一杯外止めとは残飯諸君哀れなるかな

七月十六日(月)

除隊準備の爲め除隊舎に帰省許可さる 起床後帰宅す 夜Yの所へ遊びに行つたらもう寝た跡 Yの畜生俺が来るときつと寝て了まふ 何んの気なしに見たら？ 噫俺は彼を信ずる 併し何んたる事だ 余りの事ではないか 入営した跡でどんな事かは分らない アーメン

七月十七日（火）

朝目がさめたら八時過ぎ 若干仕事を手伝つてからYの許へ 色々御馳走になる 母も若干嬉んでくれた様だつた 併しYの奴逆も俺には手が付けられない あんな女とは思はなかつた とう／＼又一杯食はされた もうこり／＼だ 彼女の真実が思はれる 何しろ一年半の留守だ 無理もないが 帰営後除隊準備で仲々多忙

七月十八日（水）

懷シノ五七二居ルノモ今日が最後夕午前中ハ軍旗ニ対シ最後ノ捧銃 お別れだ 併し時正ニ非常時 吾等ハ何時又軍旗ノ下ニ集リ来ルダロウ 其ノ時ヲ胸ニ描キツ、別レヲ告ゲ R長及大隊長ノ訓辞ヲモアリ終ル 午後ハ簡閱点呼の予集だ 予備役と叫びつ、其ノ時ノ氣持如何ん 夕は全員会食 楽しいき一期を振り返り皆仲よく最後の別れを付けた

七月十九日（木）

重き任務も恙なく果して愈々今日郷里に錦を飾る事が出来るのだ 思へば懐しき郷里を歓呼の聲に送られて入営してより一年半 或は練兵場で又内務班で鍛へた軍人精神とこの健全なる肉体とを土産物にして帰郷だ 跡に残る者には何んとなく申訳が無さそうだ 併し又来ると慰めの言葉残して一路故郷へ

註

- (1) 輕機関銃。
- (2) 軍隊の野営時に用いる道具。
- (3) 師団長または旅団長が随時に行う検閲。
- (4) 連隊 (Regiment)。
- (5) 連隊長。
- (6) 特務曹長。
- (7) こき使われる、の意か。
- (8) 林銃十郎。ただし正確には第七代連隊長。
- (9) 重機関銃。
- (10) 連隊特別射撃。
- (11) 元帥その他将官が勅命により行う、軍規・教育・法規実施・動員計画・會計経理・軍需品・營造物などの検閲。
- (12) 銃身内部を掃除する棒。
- (13) 二年服役者の意か。

(国立歴史民俗博物館研究部)
(二〇〇五年五月一三日受理、二〇〇五年七月一五日審査終了)

The Daily Life of the Sakura Regiment : As Described in the 1934 Diary of a Private First Class

ICHINOSE Toshiya

The activities of the 57th Sakura Infantry Regiment on the battlefield are relatively well known from a number of regimental histories and memoirs. However, little is known about the daily life and thoughts of soldiers during peacetime. The aim of this paper is to reconstruct the daily training and life of soldiers in the regiment from the study of a diary written virtually everyday by a private first class in the regiment in 1934. The diarist most likely took up his position in January 1933 and then left the regiment on July 19, 1934. The diary contains entries from January 1 through August 18, 1934, by which time he had been discharged from the regiment.

This paper attempts to reconstruct the daily lives of soldiers and covers the topics of exercises and duties in Chiba, exercises at the foot of Mt. Fuji, competitive sports and loyalty to the regiment, everyday clothing, food and shelter, un-official forms of punishment, and the relationship between the regiment and the local community. It also takes a look at how the soldiers regarded the regiment they were attached to and whether this constituted support for the Imperial Army. It may be noted that this diary, with the exception of the part following the writer's discharge from the regiment which is not directly related to the daily activities of the regiment, has been republished in full to provide background information.